

2017 年度けいじゅヘルスケアシステム方針

文明が開化した明治維新より 150 年が経過する。50 年周期に時代は変わる。近代国家への道、大戦・敗戦と復興、そして団塊の世代という人口ボーナスによる繁栄期である。そして、次の 50 年は、その団塊の世代がいよいよ高齢世代へ突入し、しかも人口減社会を迎えようとしている。

これまでと異なる価値観を持つ高齢世代に我々は対応する必要がある。ネガティブ思考ではなく**意志をもって高齢社会をリード**する必要がある。われわれが持つ医療介護福祉間で、さらには地域社会との間で**全体最適**を図りながら、先を読み、気働きを利かせながらサービスを提供する。それが、**患者満足、利用者満足**につながり、かつ**職員のやりがい**にもつながるに違いない。

継続的基本方針

1. 患者・利用者に信頼される医療機関・介護施設となる
2. 地域社会から必要とされる医療機関・介護施設となる
3. 経営の健全性を維持する
4. 恵寿フィロソフィの周知・浸透

単年度方針

患者・利用者、そして職員が笑顔になるために、**患者・利用者の価値中心の医療介護福祉**を目指そう。職員の**仕事の質**を見直そう。

『今こそ QOL 経営を実践しよう』

* 患者・利用者の価値中心：アウトカム、情報提供や相談支援、患者の選択、患者参加、患者教育など

* QOL : Quality of Life 生命の質ばかりではなく、特に患者・利用者の生活（在宅生活、入院生活、入所生活）の質を考えよう。そして、職員の生活の質も考えよう。

TQM 発表大会（董仙会）

■前期 第14回 2017年9月30日(土) コスモイル羽咋 大ホール

セッション1 『患者・利用者のQOL』 座長：恵寿総合病院 薬剤部長、泌尿器科科長 川村 研二

サークル・部署	テーマ
原点回帰（3-2、救急外来、中央手術室）	超緊急手術患者の受け入れを迅速に行う
内視鏡課	大腸内視鏡検査・腸管洗浄液飲用における新たな取り組み～1年を経過して～
ケアサポートすみれ	がんサポート看護外来の活動
つなげ隊	スピーディに返書をお届けする為に
◎POS	生活行為向上に向けたリハプログラムの推進～生活行為向上リハ加算取得に向けたシステムの構築～

セッション2 『高齢社会をリードする』 座長：恵寿総合病院 診療部長 内科科長 山崎 雅英

サークル・部署	テーマ
3rdGで看護の質をみなおし隊！	第三者評価にむけて整備する
◎スノードロップ（恵寿金沢病院 2階病棟）	移植看護の標準化にむけての取り組み
ひまわり（5-4・5-5・MSW・居宅支援事業所）	面倒見の良い退院支援～他職種の連携～
Team 中能登（リハビリテーション部）	中能登町での介護予防・日常生活総合事業への取り組み ～訪問・通所一体型短期集中予防サービス「スーパー元気アップ塾」～
臨床検査課	臨床検査課におけるBCPマニュアル整備、そしてBCMへ

セッション3 『患者・利用者・職員のQOL』 座長：恵寿総合病院 事務長 森下 毅

サークル・部署	テーマ
ラダーGO	日本看護協会版看護師のクリニカルラダーへの転換
（本院看護部、金沢病院、HCU、5西、5東）	～恵寿式地域包括ケアシステムを支え、当法人内で働くすべての看護師のために～
◎内服管理実践チーム	シンプルで確実な内服管理を行う！～新たな仕組みの構築～
E・G・G 医事課（恵寿金沢病院 医事課）	外国人患者に慌てない窓口応対
PMS（医療福祉相談課、医療秘書課）	患者 QOL 重視のために、退院支援体制を充実させよう！
董仙会 管理栄養士	施設間の連携のために栄養情報を正確に伝達する

◎：優秀サークル

■後期 第15回 2018年3月17日(土) コスモイル羽咋 大ホール

セッション1 『顧客のQOL』 座長：恵寿金沢病院 事務長 森田 均

サークル・部署	テーマ
◎恵寿総合病院 看護部 3病棟2階	災害時でもお母さん赤ちゃんを守ります～地域とのネットワークづくり その第一歩～
恵寿総合病院 臨床工学課	患者のQOL向上のために、透析患者の筋肉量減少予防の取り組み～患者教育～
サービス課、地域連携課、医事課、医療秘書課	満足感のある外来受診のために、本館での待ち時間の短縮
ピュータイ・ケア（鳩ヶ丘・鶴友苑・和光苑）	施設入所の受け入れ対象者拡大のための取り組み
恵寿総合病院 放射線課	患者不安解消のための検査説明業務の取組み

セッション2 『職員のQOL』 座長：恵寿金沢病院 内科科長 村田 了一

サークル・部署	テーマ
恵寿金沢病院 看護部 2階病棟	患者の退院後の生活を整えるためできること～当病棟における退院支援・調整方法の現状を振り返って～
総務部、介護事業統括部、健康管理センター	職員のQOL向上のためにホワイト500、ブラチナくるみん等認定を目指す
◎「ふやし隊」パート2	ポイント制の導入により夜勤人員を確保する一人でも1回でも夜勤ができる看護師を増やす～
恵寿総合病院看護部 6東、6西、5西、5-5、3-3	看護の質を上げ、患者もスタッフも笑顔に！～ロールプレイによりマインドを理解し、PNS定着を図る～
笑顔で介護！全介護事業所	介護キャリア段位制度の推進～アセッサー及び被評価者養成による仕事の質の向上～

セッション3 『QOL 経営』 座長：恵寿総合病院 耳鼻咽喉科科長 山田 和宏

サークル・部署	テーマ
◎BEANS サークル（恵寿総合病院 地域連携課）	連携医療機関エリア拡大による医療、介護のあるまちづくり ～能越自動車道を利用した氷見市への営業拡大～
DPC連合（事務部、看護部 本部 企画部）	增收のためのDPCデータの理解と有効活用
インベントリー（経理課、用度課、臨床工学課）	医療機器の棚卸し
Healthy（健康管理センター、本部）	NEW健診プログラムの見直しとPET健診予約ツールを拡張し、健診を充実させる
「訪問看護に行こう、そだね」 (恵寿金沢病院外来・3階病棟・地域連携課)	退院後の患者さんの生活を支えるために、訪問看護を立ち上げる

◎：優秀サークル

事例研究大会（徳充会）

■ 大会テーマ『質の向上を目指して～利用者・職員の笑顔のために～』

■ 日 時：2018年2月24日（土）青山彩光苑内

第1部

所属	発表者	タイトル
エレガンテなぎの浦		音楽教室で脳と身体をリフレッシュ
柿島 栄美子・刀祢 千恵・石本 すみ江・山本 真実枝		
もみの木苑 廬 実里		笑顔ある時間を～精神的不安を軽減するために～
ローレルハイツ恵寿 土田 智己		サ高住での生活を継続したい～自分らしい生活スタイル～
☆青山彩光苑ライフサポートセンター加島 宏祐・岩木 峰香		その屋外散歩は本当に楽しい？～ストレス測定してわかったこと～
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター 高見 翼		ボッチャにかける思い～更なる高みへの挑戦～
石川県精育園 町中 可織		自分で決めたい～自己選択・自己決定を支援する～
◎青山彩光苑リハビリテーションセンター 山科 ゆかり		杖を自分の目にして活かす～自由に動きたい～
石川県精育園 堀内 潤		こだわりを持つ利用者様への良き支援
◎エレガンテなぎの浦 諸谷 百合子		施設での看取りを考える
青山彩光苑ライフサポートセンター 橋本 拓也・坂下 美雪		利用者が新しい体験をする取り組み～季節を感じ、楽しみを求めて～
○青山彩光苑穴水ライフサポートセンター 西谷 愛		障がい者週間・福祉教育～達成感を得るために～
石川県精育園 水口 恵美・濱谷 江美・米屋 能利子・土場 悅子・畠介 津江・平譯 麻理		ウォシュレットの使用練習を通じて、排泄への識が高まり、失禁の減少につながった1事例

第2部

所属	発表者	タイトル
エレガンテたつるはま 藤澤 恵		穏やかに過ごして頂く為に～暴言のある利用者と他利用者の関係性について～
ふれあいの里 谷口 美帆・久保 由美子・出村 陽子		パリデーションを通して～言葉だけじゃない～
エレガンテなぎの浦 大坂 直美		業務の効率化
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター 碓井 求・大町 みづき		東京旅行～楽しく旅行に行こう～
健康増進センターアスロン		快適な空間づくり～ストレスフリーなトレーニングジム～
茅崎 雅孝・谷口 ひとみ・松本 雅予・宮本 佳奈		
青山彩光苑ライフサポートセンター 浦上 智和		釣りクラブの活動について～安全に楽しんでもらうために～
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター 船山 和浩		利用の安定から心身機能の向上を目指して～成功体験によって取り戻した自信～
エレガンテなぎの浦 山口 直美・久岡 夕子		摂食嚥下評価から新たな取り組みに向けて
☆青山彩光苑リハビリテーションセンター 中村 智子・佐竹 綾乃		自分の大切な人を利用させたい施設づくり～介護のあり方検討委員会として今、担うべき役割～
☆エレガンテなぎの浦 前澤 小百合・安田 美和子		排泄グループ支援～排泄体操をとおして～
○ふれあいの里 中田 智美・室木 瞳・谷口 由美子・西川 繁子		中重度者ケアへの取り組み～大人の塗り絵展に参加して～
ローレルハイツ恵寿 中川 千恵		ポケットのある褥瘡処置について～治癒を目指す～

第3部

所属	発表者	タイトル
青山彩光苑ライフサポートセンター 松柳 満城子		生活の質の向上を目指して
石川県精育園 谷口 秀人		言葉が表出できない最重度知的障害者に対し、行動から意思を汲み取り、支援に結びつけた一例
障害者生活支援センター 越田 美喜子		医療的ケア児の支援～家族の負担の大きさと地域課題～
事務局経営企画部 川北 良太		社会福祉充実残額の算定について
ワークセンター田鶴浜 古木 勉		安定した水耕栽培を目指して～農薬使用について～
石川県精育園 栃木 和美		いつか一人暮らしをしてみたい～グループホーム入居者への自立支援～
石川県精育園 森本 郁・水端 郁枝・平譯 麻理・岡峰 悅子		「利用者ニーズ」を曲として表現する取り組み～歌に想いをのせて～
青山彩光苑ライフサポートセンター 松田 望		QOL向上を目指した支援～可能性を求めて～
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター 宮西 竜太郎		脱！！オムツ
もみの木苑 柿島 善浩・津崎 智美		季節を感じる施設づくりを目指して～制作支援を通じて～
ヘルパーステーションローレル 大畠 博美		三つの夢を叶えたい～向上心を持って～
☆エレガンテなぎの浦 佐々木 路香・西田 恵・順毛 沙弥香・受川 いづみ		ついに発足！接遇向上委員会～職員一人一人のスキルアップへの道～

【障がい者事業局・高齢者事業局】 ◎：最優秀賞 ○：優秀賞 ☆：苑長賞

メディア掲載（董仙会）

日付	内容	掲載媒体
2017.4.2	病院の実力～石川編 脳腫瘍 2016 年治療実績	読売新聞
2017.4.4	新任式	北國新聞
2017.4.18	七尾商工会議所新副会頭 神野正博理事長 新任挨拶	北國新聞・北陸中日新聞
2017.4.26	ムラタ(福井市)より車いす寄贈 (在宅複合施設ほのぼの)	北國新聞
2017.4.29	「花嫁のれん」フラッグが院内を彩る	北國新聞
2017.5.11	ななおあいじこども園 35 人 プチナース・ふれあい看護体験	北國新聞
2017.5.21	ふれあい看護体験 (助産師体験)	北國新聞
2017.6.3	スーパー元気アップ塾開設	北國新聞・北陸中日新聞
2017.6.23	寄り合い処カフェ「みらい Café」オープン	北國新聞・北陸中日新聞
2017.6.29	全国 49 社 イクボス宣言	北國新聞
2017.7.6	県内初の喀痰吸引等研修センター開講	北國新聞・北陸中日新聞
2017.7.15	恵寿総合病院 100 歳お祝い	北國新聞
2017.7.22	大腸がんリスク採血検査 北陸初導入	北國新聞・北陸中日新聞
2017.8.3	「栄養の日」イベント開催	北國新聞
2017.8.8	高齢者向け健康教室 (介護老人保健施設 鶴友苑)	北國新聞
2017.8.10	ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業	北國新聞
2017.8.11	七尾高校生 病院見学、若手職員と交流	北陸中日新聞
2017.8.24	自分のカルテをスマホで確認できるサービス導入	北國新聞
2017.8.30	七尾高校で出前授業開催	北國新聞・北陸中日新聞
2017.9.4	自分のカルテをスマホで確認できる「カルテコ」導入	北陸朝日放送「スーパー」チャンネル 石川テレビ「みんなのニュース」
2017.9.5	自分のカルテをスマホで確認できる「カルテコ」導入	北國新聞・北陸中日新聞
2017.9.6	自分のカルテをスマホで確認できる「カルテコ」導入	読売新聞
2017.9.10	全日本病院学会 in 石川が開幕	北國新聞・北陸中日新聞
2017.9.12	鶴友苑 100 歳お祝い	北國新聞・北陸中日新聞
2017.9.25	七尾海上保安部の洋上救急慣熟訓練	石川テレビ「県内 NEWS PICKUP」
2017.9.26	七尾海上保安部の洋上救急慣熟訓練	北國新聞・北陸中日新聞
2017.9.30	特定行為研修センター修了式 特定行為看護師 5 名誕生	北國新聞・北陸中日新聞
2017.10.4	グッドデザイン賞 北陸 3 県で 31 件	日本経済新聞
2017.10.5	「ユニバーサル外来」グッドデザイン賞ベスト 100 に選出	北國新聞・北陸中日新聞
2017.10.5	「ユニバーサル外来」グッドデザイン賞ベスト 100 に選出	NHK「NHK ニュース」
2017.10.17	カラダの経済学 健康管理は自ら行う時代～データヘルス計画	BS ジャパン「日経モーニングプラス」
2017.10.19	一本杉 Café 「振り込め詐欺防止講座」	北國新聞

第 2 章 法人方針・事業報告

日付	内容	掲載媒体
2017.10.20	再就業支援セミナーを恵寿総合病院で開催	北國新聞
2017.10.20	石川県健康増進事業推進功労者表彰 宮森弘年 医師	北國新聞
2017.10.31	七尾市長杯争奪市民軟式野球大会 3回戦進出	北國新聞
2017.11.2	「ユニバーサル外来」グッドデザイン特別賞を受賞	北國新聞
2017.11.10	グッドキャリア企業アワード 2017 イノベーション賞受賞	北國新聞
2017.11.11	グッドキャリア企業アワード 2017 董仙会が選出	北陸中日新聞
2017.11.19	羽咋高校「医志未来塾」を開催	北國新聞
2017.11.27	医療ルネサンス「新米ママ見守る看護師」	読売新聞
2017.11.28	グッドキャリア企業アワード表彰式	北陸中日新聞
2017.11.29	在宅複合施設ほのぼの 100 歳お祝い	北國新聞、北陸中日新聞
2017.12.14	「カルテコ」で診断画像をいつでも確認できる機能を追加	北國新聞
2017.12.15	家庭医療専門医 2 名が合格 能登初	北國新聞
2017.12.16	「カルテコ」スマホで検査画像を確認できる機能を追加	北陸中日新聞
2018.1.1	災害時に医療情報放送 ラジオななおと協定	北國新聞
2018.1.5	恵寿総合病院 新年互礼会、出初め式	北國新聞
2018.1.6	和光苑 100 歳お祝い	北國新聞・北陸中日新聞
2018.1.17	グッドデザイン賞を受賞した診察室って...	日経デジタルヘルス
2018.1.30	ラジオななおで災害時医療情報協定について紹介	北國新聞
2018.2.21	健康経営優良法人に認定	北國新聞
2018.2.26	2018 マリンカップフットサル大会 恵寿 FC が優勝	北國新聞
2018.2.27	中央大学（東京）で U ターン就職について PR	北國新聞
2018.3.1	中央大学（東京）で U ターン就職について PR	読売新聞
2018.3.9	能登地域の産科医療について	北國新聞
2018.3.20	山田邦子さんチャリティーコンサート告知	北國新聞
2018.3.23	山田邦子さんチャリティーコンサート開催	北國新聞・北陸中日新聞
2018.3.23	臨床研修修了式	北國新聞
2018.3.24	臨床研修修了式	北陸中日新聞
2018.3.31	「カルテコ」妊婦向けサービス勉強会	北國新聞

メディア掲載（徳充会）

日付	内容	掲載媒体
2017.5.16	七尾鹿島安全運転協議会 平成 28 年度優良事業所表彰 (青山彩光苑)	北國新聞・北陸中日新聞
2017.5.16	天皇皇后両陛下のお手書きされた種から育った苗木を植樹（石川県精育園）	北國新聞
2017.5.25	ボッチャ県大会でメダル（穴水ライフサポートセンター）	北陸中日新聞
2017.7.15	グラウンドの無料開放（ふれあいの里）	北國新聞
2017.7.26	エレガンテなぎの浦 納涼祭（エレガンテなぎの浦）	北陸中日新聞
2017.7.27	障がい者施設防犯対策整備状況（石川県精育園）	北陸中日新聞
2017.7.27	メダル♪ロジエイのための携帯電話等の寄付 NTT ドコモへ（青山彩光苑）	北國新聞
2017.7.30	夏祭り（穴水ライフサポートセンター）	北國新聞
2017.9.7	青山彩光苑入居者の桶屋氏、冊子「車椅子目線からめぐる七尾の旅」製作 (青山彩光苑)	北陸中日新聞
2017.9.9	救命講習徐行優良証交付式（青山彩光苑）	北陸中日新聞
2017.9.15	平成 29 年自衛消防隊訓練大会参加メンバー紹介（青山彩光苑）	七鹿防災
2017.9.18	フライングディスク 穴水ライフ利用者優勝（穴水ライフサポートセンター）	北陸中日新聞
2017.10.5	穴水で障がい者が仕事体験（穴水ライフサポートセンター）	北國新聞
2017.10.15	北陸ボッチャオープン大会 穴水ライフ利用者優勝（穴水ライフサポートセンター）	北陸中日新聞
2017.10.16	北陸ボッチャオープン大会 穴水ライフ利用者優勝(オープンの部) (穴水ライフサポートセンター)	北陸中日新聞・北國新聞
2017.10.21	穴水の施設から優勝者 2 人も（穴水ライフサポートセンター）	北陸中日新聞
2017.11.7	石川県精育園利用者らが作詞作曲した歌を精育園祭に披露 (石川県精育園)	北陸中日新聞
2017.11.9	障がい者週間の啓蒙活動（七尾駅でクリアファイル配布）（青山彩光苑）	北國新聞・北陸中日新聞
2017.11.12	健康麻雀交流大会（穴水ライフサポートセンター）	北陸中日新聞
2017.11.23	障がい者週間イベント（徳田小学生 4 年生児童との交流）－青山彩光苑－	北國新聞・北陸中日新聞
2017.11.23	青山彩光苑 防犯訓練 －青山彩光苑－	北國新聞
2017.12.3	石川県精育園で公開講座を開催	北陸中日新聞
2017.12.9	石川県精育園利用者の作品展、穴水町立図書館にて	北陸中日新聞
2017.12.10	障がい者週間イベント～講演会を含む各種イベントについて～ (青山彩光苑)	北國新聞・北陸中日新聞
2017.12.10	障がい者週間イベント～講演会を含む各種イベントについて～ (穴水ライフサポートセンター)	北國新聞・北陸中日新聞
2017.12.16	石川県精育園 防犯訓練（石川県精育園）	北陸中日新聞
2018.1.11	石川県精育園利用者の作品展、のと共栄信用金庫穴水支店にて	北陸中日新聞
2018.3.27	自立ホームけいじゅ 竣工式	北陸中日新聞

来訪者一覧（董仙会）

日付	来訪者	見学内容
2017.4.12	横浜市南部病院（副院長他、計 6 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.4.18	社会医療法人天神会（法人本部長他、計 7 名）	セントラルキッチン、コールセンター
2017.4.25	社会医療法人帰巣会みえ病院（本部医療事業部長他、計 3 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.5.18	河北総合病院（3 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.5.23	東海北陸厚生局（1 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.5.26	社会福祉法人石龍会（4 名）	セントラルキッチン
2017.6.1	社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス（6 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.6.5	社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院（2 名）	広報
2017.6.6	一般財団法人竹田健康財団（5 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.6.16	公立大学法人 福島県立医科大学 医学部 教授	けいじゅヘルスケアシステム
2017.8.9	石川県立七尾高等学校（9 名）	病院見学
2017.9.8	学会前日エクスカーション（5 団体 13 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.9.11	山本記念病院（理事長他、2 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.9.22	湘南医療大学（4 名）	リハビリテーション部
2017.10.10	公益財団法人日本デザイン振興会（1 名）	ユニバーサル外来
2017.10.26	浜脇整形外科病院（理事長他、計 8 名）	電子カルテシステム
2017.11.1	大阪滋慶医療科学大学院大学（特任教授他、計 2 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.11.16	医療法人社団 晴山会（法人本部長他、計 2 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.11.17	京都府病院協会（理事長・病院長 計 16 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.11.18	石川県立羽咋高等学校 2 年生（34 名）	病院見学、医療職体験
2017.11.20	学校法人七尾鵬学園 鵬学園高校 1 年生（23 名）	病院見学
2017.11.20	フロスト&サリバンジャパン（プリンシパルコンサルタント他、計 1 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2017.11.24	三菱商事 生活流通本部 ヘルスケア部（計 4 名）	けいじゅヘルスケアシステム セントラルキッチン
2017.12.11	田主丸中央病院（理事長他、計 6 名）	けいじゅヘルスケアシステム セントラルキッチン
2018.1.4	戸田建設（執行役員他、計 4 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.1.31	社会福祉法人 恩賜財団 東京都済生会中央病院（2 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.3.2	JAHIS 保健医療福祉情報システム工業会（4 名）	PHR、コールセンター
2018.3.7	大阪市立大学大学院医学研究科（1 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.3.17	公益財団法人日本デザイン振興会（2 名）	ユニバーサル外来

第 2 章 法人方針・事業報告

来訪者一覧（徳充会）

日付	来訪者	見学内容
2017.4.12	恩賜財団済生会横浜市南部病院（6名）	ローレルハイツ恵寿
2017.4.25	社会医療法人帰巖会えみ病院（3名）	ローレルハイツ恵寿
2017.5.24	石川県田鶴浜高等学校衛生看護科専攻科 (教員2名、2年生37名 計39名)	青山彩光苑案内
2017.6.5	社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院（2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.6.6	一般財団法人竹田健康財団（5名）	ローレルハイツ恵寿
2017.7.6	羽咋市社会福祉協議会（15名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.8	医療法人社団まほし会 真星病院（2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.8	平山病院（2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.8	山鹿中央病院（4名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.8	東京海上日動火災保険株式会社医療福祉法人部（3名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.8	浅井病院（3名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.11	山元記念病院（2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.9.14	能登地区 居宅ケアマネージャー（6名）	ローレルハイツ恵寿
2017.10.13	七尾国際医療福祉専門学校 介護福祉学科（教員、生徒7名）	青山彩光苑内
2017.10.24	浜脇整形外科病院（理事長他、計8名）	ローレルハイツ恵寿
2017.11.1	大阪滋慶医療科学大学院大学（特任教授他、計2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.11.1	生活・介護支援センター養成講座受講者（28名）	ふれあいの里内
2017.11.8	七尾国際医療福祉専門学校 作業療法学科（教員、生徒計10名）	青山彩光苑内
2017.11.16	医療法人社団 晴山会（法人本部長他、計2名）	ローレルハイツ恵寿
2017.11.17	京都府病院協会（理事長・病院長 計16名）	ローレルハイツ恵寿
2017.11.24	三菱商事 生活流通本部 ヘルスケア部（計4名）	ローレルハイツ恵寿
2017.12.11	田主丸中央病院（6名）	ローレルハイツ恵寿
2017.12.22	戸田建設（執行役員他、計4名）	ローレルハイツ恵寿
2017.12.23	中能登町社会福祉法人 居宅事業所（3名）	ローレルハイツ恵寿
2018.1.31	能登島地区民生委員（10名）	青山彩光苑内

■継続的基本方針

法人が社会に選ばれ続けるために、「石川県と言えば恵寿である」と全国から評価される法人を創ってきた。しかし、そのことを恵寿の膝下である地域住民に理解されているだろうか？その前に職員は理解しているのだろうか？職員は、恵寿フィロソフィに則り素晴らしい恵寿、一流の恵寿となるために常に創造して欲しい。そして新たな恵寿ブランドを創って行かなければならない。

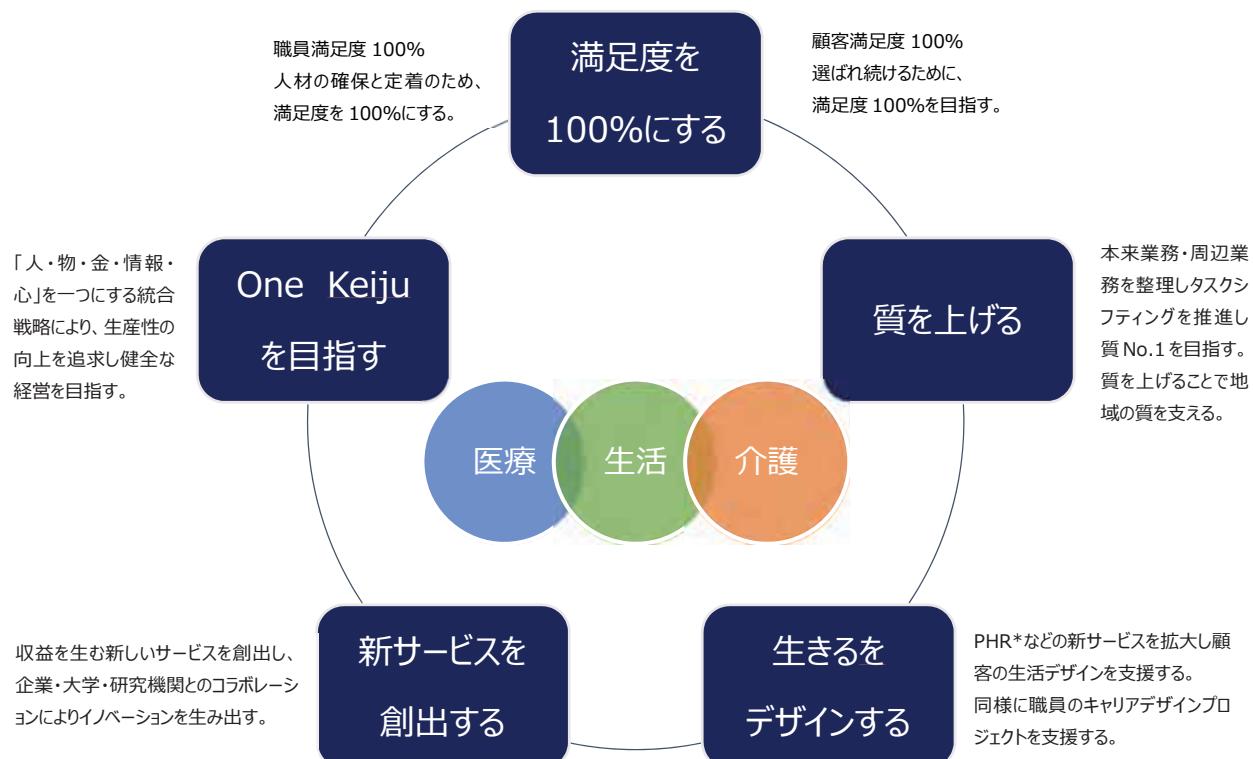
□継続的基本方針を達成するための基本戦略

【チャレンジ精神を持ち常に創造する】

今、顧客の価値観が変わってきている。これに対応して私たちは新しい価値を見出していくなければならない。かかりたい病院、家族を利用させたい施設を創り出すことに邁進しなければならない。今までのサービスを全く新しいものに作り直すくらいの気概が必要である。

【恵寿ブランドの創出】（ブランディング）

法人は、これから ①満足度を 100%にする ②One Keiju を目指す ③生きるをデザインする ④質を上げる ⑤新サービスを創出する 以上を実現し、新たな恵寿ブランドを創って行く。



PHR*とは、パーソナルヘルスレコード(Personal Health Record)を示す。個人が、自らの生活の質（QOL）維持や向上を目的として、自らの生涯健康情報を収集・保存・活用する仕組み。董仙会では MDV 社の「カルテコ」を導入。

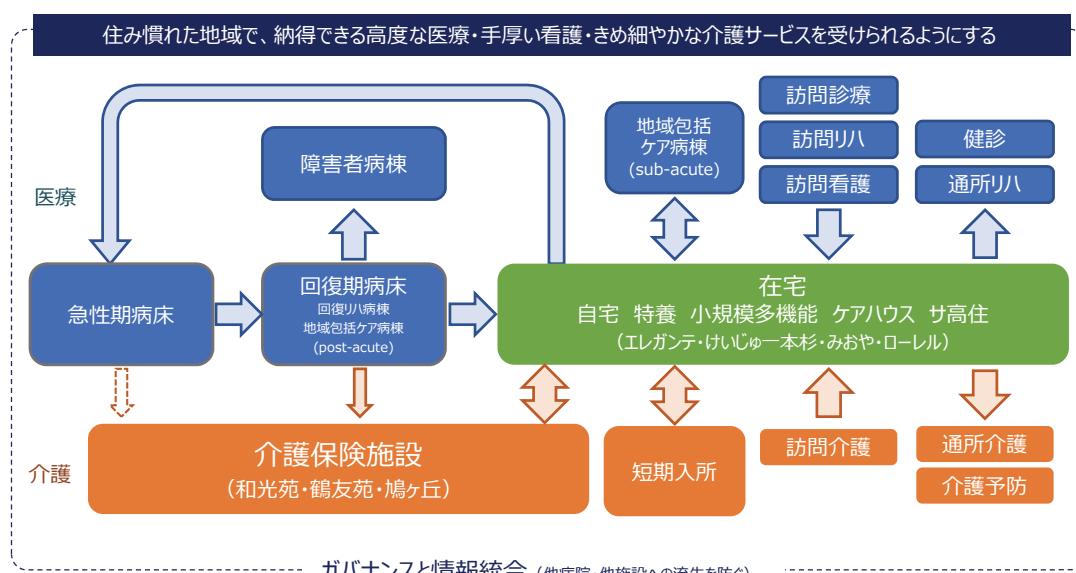
■ 法人のあるべき姿・顧客のあるべき流れ

基本戦略、施策を達成する前提として、能登地域・金沢地域の方針・顧客のあるべき流れを図に示す。すべての職員が理解し、業務を遂行しなければならない。

□ 能登地区方針

住み慣れた地域で、納得できる高度な医療・手厚い看護・きめ細かな介護サービスを受けられるようにする。
職員は既存の施設・サービスを最大限に活用し顧客の流出を防ぎ、けいじゅヘルスケアシステム内で完結するようにガバナンスと情報統合を強化する。

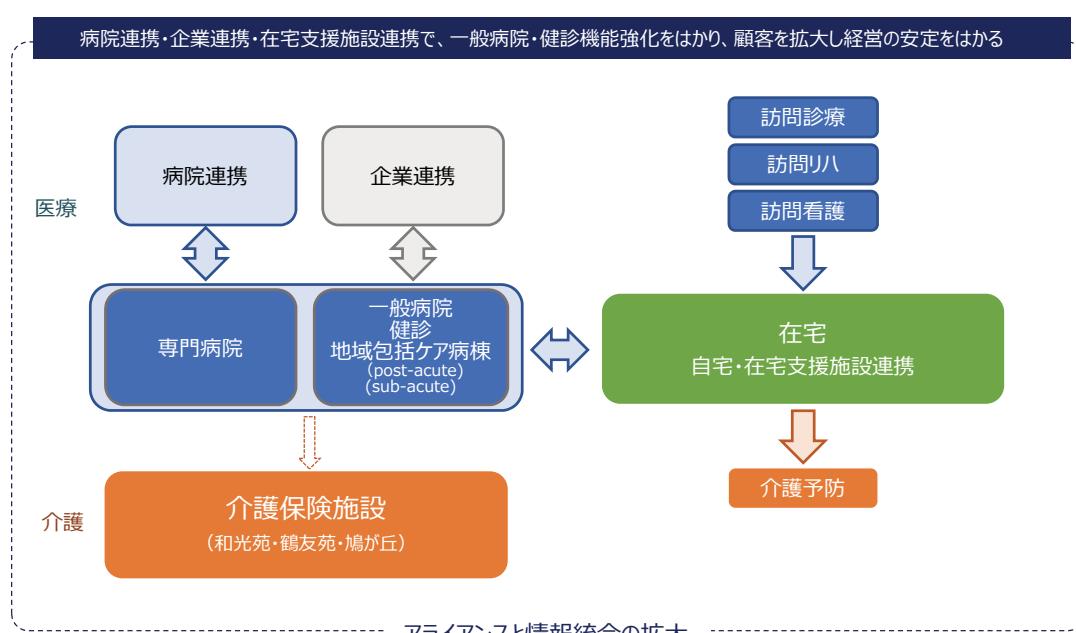
董仙会のあるべき姿（能登地区）



□ 金沢地区方針

病院連携・企業連携・在宅支援施設連携で、一般病院・健診機能強化をはかり、顧客を拡大し経営の安定をはかる。

董仙会のあるべき姿（金沢地区）



■ 繼続的基本方針を実現する方法

継続的基本方針と、現状の姿（SWOT 分析）のギャップを以下に示す。強みを活かし、弱みを補いながら 3 年で目指す将来像に到達することを目標とする。



■ 継続的基本方針の実施計画

2020 年度までの 3 カ年実施計画を以下に示す。

初年度は主に改善・克服戦略、次年度は積極・差別化戦略を遂行し、3 年後の目指す将来像を完成させる。

2018 (改善・克服)
「創れ、恵寿バリュー！」
社会構造の変化への対応を見据え、職員と顧客が共有できる価値を創造する

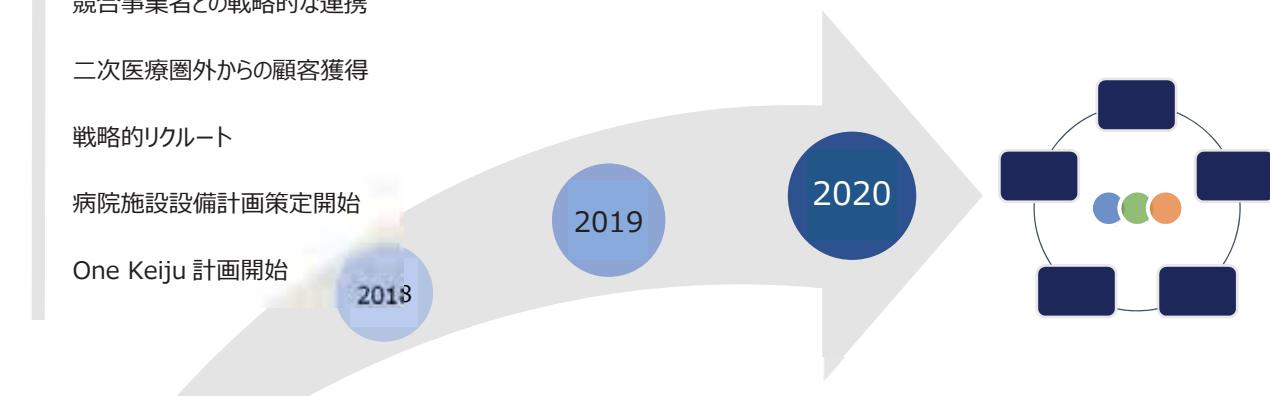
- ・ 恵寿式チーム医療の完成
- ・ 職員満足度 100%達成
- ・ データ経営の確立
- ・ 高度医療・専門医療の強化
- ・ PHR 事業の拡大
- ・ 顧客に選ばれる仕組みづくり
- ・ 他病院・施設への流出防止
- ・ 競合事業者との戦略的な連携
- ・ 二次医療圏外からの顧客獲得
- ・ 戦略的リクルート

- ・ 病院施設設備計画策定開始
- ・ One Keiju 計画開始

2020
「経営品質の高さ」
×
「顧客による社会的評価」
恵寿ブランド力の向上

- ①満足度を 100%にする
- ②One Keiju をつくる
- ③生きるをデザインする
- ④質を上げる
- ⑤新サービスを創出する

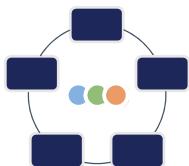
上記 5 施策の完成
→「石川=恵寿」の完成



2019 (積極・差別化)

- 病院・施設の設備計画の完成
- 七尾+金沢 One Keiju (統合戦略) による経営資源の最大活用
- 顧客満足度 100%達成
- サービスの質の進化によるシェア拡大
- 産学連携コラボレーションによるサービス開発

■継続的基本方針 戦略目標



2020年度までに継続的基本方針を達成するための5施策

- ①満足度を100%にする
- ②One Keijuを目指す
- ③生きるをデザインする
- ④質を上げる
- ⑤新サービスを創出する

財務の視点

1. 顧客の生涯健康維持をサポート

リテンションマーケティングを行い既存利用者との結びつきを強めるとともに、新規利用者の獲得を行う

患者、利用者とのつながりを強化するためにPHRを拡充する

2. 将来にわたる事業の発展、地域への貢献

経営の健全性を維持するため、生産性を向上させ、医業収入の黒字化、医業外収入の増加を目指す

サービスの質で競合を超越し、金沢での拡大、能登での充実を図る。人件費率（医療、介護）の適正化を行う

顧客の視点

1. 顧客満足度 100%

顧客の価値観の変化に則した魅力ある医療・介護施設群へとゼロからの転換を図り満足度100%を目指す

2. 職員満足度 100%

職員の健康と幸せを築くために「健康経営×キャリアデザイン・プロジェクト」を推し進め満足度100%を目指す

3. 恵寿ブランドの創出

選ばれ続けるために、「七尾=恵寿」、「石川=恵寿」となるようなコーポレートアイデンティティ=ブランディングの完成を目指す

4. “恵寿式”地域包括ヘルスケアサービスの完成

徹底した顧客満足度向上のためにサービスをいつでも安心して受けられるようとする

「どうすれば利用してもらえるのか」「継続的な利用をどうやって実現するか」をデザイン思考で完成させる

5. 専門技術・知識、現場力の蓄積 成長・やりがいの実感

医師・看護師・その他医療技術職の専門性を発揮するためにタスクシフティングやキャリアチェンジを推進する

業務プロセスの視点

1. 顧客参画型恵寿式チーム医療の完成

既存サービス+患者利用者の参画、職員のお互い様意識を醸成（多様性理解）し合う環境作りを行う

2. 事業競争力の強化・差別化

急性期機能・高度医療（救急・がん・脳卒中・心臓・呼吸器外科・整形外科・健診）を強化するために医師の招聘を（3年後100名体制）行い患者・利用者の流出を防ぐ

3. 経営資源の効果的・効率的な運用

経営資源「人・物・金・情報・心」の効率的な運用を行い、生産性の向上を目指す

限られた人的資源を最大限に活かす統合戦略を行い遠隔診療・テレワークなどの働き方改革を行う

4. Only1、No1 領域の確立

恵寿の絶対的な強みである「医療介護統合電子カルテ」、「セントラルキッチン」、「コールセンター」、「樂のり君」、「ユニバーサル外来」、「産科」、「家庭医療」、「無痛分娩」、「内視鏡」、「血液内科」、「乳腺外科」、「呼吸器内科」、「心臓血管外科」、「糖尿病内科」、「回復期リハビリテーション」を確立し収益事業化する

5. データ経営の確立・PDCA 遂行

原価管理、DPC ベンチマーク、Quality Indicator などデータに基づく経営を確立する

6. 将来への事業基盤の構築

老健施設、金沢病院の改修計画、病床・病棟の再編・医療機器、IT 投資計画等 BCM として病院・施設設備計画を完成させる

7. 収益を生むイノベーションの創出

企業・大学・研究機関との AI、IoT を利活用した「既存サービス×医療」コラボレーションによる収益を生む新たなサービス開発を行う

学習と成長の視点

1. 事業環境の精緻な分析と情報共有

競合環境やマーケットシェアを分析し、既存顧客の流出防止と新規獲得を行う

2. BSC 目標管理の徹底革新とチャレンジ精神の醸成

全ての職員が、法人のミッション・ビジョン・戦略テーマを納得・理解し BSC の定着と PDCA を推進する

職員自身が自発的に考え行動することを目指す

3. 戦略的リクルート・連携・協働

戦略的なブランディング、広報による優秀な医師・看護師・介護職獲得のためのリクルート活動を行う

競合事業者との（急性期リハビリ、介護事業者、小児科、婦人科、精神、歯科）Win-Win な連携を行う

4. 人材マネジメントの強化

キャリアビジョンの提示、全体最適を図る人材育成を組織を挙げて取り組み次世代リーダーを育成する

董仙会本部

董仙会本部

■部門代表者

神野 厚美（常務理事） 進藤 浩美（本部長）

■2017年度のトピックス、実績

人事評規程の刷新と董仙会中期計画の策定

「今こそ QOL 経営を実践しよう」という方針に向けて、基本に立ち返った BSC をもとに、戦略マップを作成し、人事評価規程を刷新した。2018-2020 董仙会中期計画も策定した。

質の向上、職員確保のための第三者評価 認定

審査機関	受賞名	賞分類
公益社団法人		ベスト 100
日本デザイン振興会	グッドデザイン賞	特別賞【未来づくり】 審査員賞「一品展」
厚生労働省	グッドキャリア企業アワード	イノベーション賞
経済産業省	健康経営優良法人 (ホワイト 500)	

認証	ISO9001：2015 取得 いしかわ魅力ある福祉職場
宣言	いしかわ健康企業宣言 イクボス宣言

■事業報告

- ① 支出統制を図り、共同購入還元金・補助金の獲得など医業外収益の增收に努め、経常利益の黒字化実現。
- ② 「第 59 回全日本病院学会 in 石川」では、準備から運営までを主導し、黒字開催を実現した。発表は 70 演題以上に上り、恵寿の知名度を上げる良い機会となった。
- ③ 「ユニバーサル外来」が、2017 年グッドデザイン賞ベスト 100・特別賞【未来作り】・審査委員賞「一品展」受賞。ビジネスデザインの範としてグッドデザインラボに参画。総理官邸における生産性向上国民運動推進協議会にて、発表。
- ④ 目標管理の仕組みを改めバランススコアカードを導入した。自学自習により仕組みを構築し、戦略マップ、業績指標や重要業績達成指標を明確にし、2018 年計画を策定した。仕組みの強化をはかり、コミュニケーションツールとして活用する予定。さらに中期計画（2018-2020）を作成した。
- ⑤ 看護から介護へのタスクシフティングの一環として、介護職員の喀痰吸引研修を実施した。
- ⑥ 地域貢献事業として、熊本地震支援、小学校、中学校、高校生に医療の魅力を伝えるイベントを企画実施。

総務部・総務課

■部長 ■課長

坂下 純司 河合 隆志

■ 2017 年度のトピックス、実績

職員の健康と健全な経営を維持していく体制構築のため、第三者評価認定を目指し、中でも、『いしかわ健康企業宣言』を行い、経済産業省の『健康経営優良法人ホワイト 500』に認定され、総合評価では、上位 20~40%以内で、施策の効果検証改善では偏差値 60.9 という高い数値だった。下記は、2015 年協会けんぽ事業所カルテの抜粋で、全国、石川県平均よりも、非常によい結果だった。

メタボリックシンドロームの リスク保有率		1 人当たり 月平均医療費
全国平均	13.9%	14,202 円
石川県	12.8%	14,305 円
董仙会	8.7%	11,694 円

■事業報告

- ① 第三者評価について、トピックス記載の他、ISO9001:2015、『いしかわ魅力ある福祉職場』に認定された。
→職員の健康診断受診率 100%をクリアした。
- ②教育・雇用に関する補助金・助成金獲得を目指し、障害者雇用の必要数もクリアした。
→県高度医療人材育成、介護資格取得者支援、人材開発支援、キャリアアップ、特定求職者雇用開発などである。
- ③育児、介護の法改正に伴い、就業規則を変更した。無期転換職員就業規則はすでに整備してあったが、継続雇用高齢者対応も実施した。
- ④BCM Ver.2.0 にバージョンを上げた。
→2016 年から開始した人的資源確保ツールとしての人員召集、安否確認メール、水資源の確保のための使用可能水量算定式、燃料の優先供給協定などを追記した。雪害があり、定めた BCM・BCP を検証した。

財務部

■部長

安井 智美

■ 2017 年度のトピックス、実績

ISO9001 の更新と 2015 年度版への移行、適用範囲に恵寿総合病院事務部を含める拡大審査を同時に行った。内部監査員を 2 名増員し、PDCA を回す体制を強化した。下記が、2017 年度内部監査項目である。

対象部署	監査項目
総務課	新規採用職員選考試験の実施状況、職員異動手続き、規定管理メンテナンス状況、ストレスチェック体制、給与計算
経理課	業者への支払い、用度課請求書データ受入、用度課請求データ受入、消費税区分設定手順、非常勤医師の給与支払い、出張費関係
用度課	職員制服関係、応研入力およびチェック体制、物品供給手順、入札手順、CAFM 台帳

■事業報告

- ①2017 年度は、公益法人改革の元、新しい寄付行為につき、11 月 29 日 中間報告、補正予算の理事会を開催した。医業収入、人件費の下方修正、材料費の増額、会計基準変更による一時的な経費の増加や控除対象外消費税の減額などの説明を行い、収入・支出計画の補正を実施した。税理士契約も見直し、監査法人とも継続契約を結び、健全な経営状態で管理することが出来た。
- ②医療機器購入交渉、出張規程の見直しなど大幅な経費削減を行い、特別交付税などの多種の補助金申請を行なった。
- ③QOL 経営、データ経営のために、原価管理ソフトを導入し、入力すべき各種データの規定、検証作業を実施した。
- ④「第 59 回全日本病院学会 in 石川」の事務局として、予算管理、協賛金管理を行い、赤字になることなく学会を終えることが出来、精算業務、収支報告業務などを行った。
- ⑤経理課、用度課業務共に、属人化することなく、新人も手順書に基づき業務できる体制を構築した。

財務部（経理課）

■財務部次長

松田 久良

■2017年度のトピックス、実績

出張旅費の精算方法の変更

規定額支給から、実費精算支給に変更した。業務量の削減、経費の節減に繋がった。

DC 拠出金残高の管理手順を見直し

退職給付費用を見積もり時期を前倒しできた。

■事業報告

①業務において是正処置に至る前の“気づき”対策により、業務の共有化がはかれた。

②新人教育ツールとして日報を用いた結果、上司への報告だけでなくコミュニケーションツールとなった。

③用度課と協働し、医療機器の棚卸しを行った。

企画部

■部長代理

村守 隆史

■2017年度のトピックス、実績

TQM 活動として、従来の目標管理シートを BSC（バランス・スコアカード）に改めるためプロジェクトチームとして活動し 2018 年度より開始した。関連して「董仙会中期計画 2018-2020」の策定に関わった。

Web サイト訪問ユーザー数は 83,469 と前年の 92,011 を 9 % 下回る結果となり、ターゲットユーザーの選定や広報内容の対策を行う。



財務部（用度課）

■課長

池岡 一彦

■2017年度のトピックス、実績

医療機器の棚卸し

固定資産台帳（800 台）と突合せ、リース品データのを CAFM 入力を完了した。臨床工学課と共同して、医療機器 4,300 台のうち 3,500 台の点検は完了した。リース物件が一目で判別できるように、識別シールを添付した。

■事業報告

① I S O 内部監査員の認定資格 2 名取得、他課の第三者評価を実行した。

②次年度の予算申請書を採算見込み記載方式に変更し、予算統制した。

③全日病学会準備に課員全員参加し、1 演題発表した。

■事業報告

①「第 59 回 全日本病院学会 in 石川」の事務局として協賛金や製作物の準備を進めた。

→協賛企業はランチョンセミナー 21 社、広告 129 社、展示 61 社等計 292 社、参加者は合計 3,247 名と目標予算を達成した。

②TQM 活動として、従来の目標管理シートを BSC（バランス・スコアカード）に改めるためプロジェクトチームとして活動した。

→課長、係長、医師への説明会や勉強会を開催し 2018 年度より開始した。

③董仙会の取り組みについて対外的にニュースリリースを発信し、新聞、雑誌、テレビ等のメディアに掲載された回数は延べ 63 回。

④董仙会の中期計画策定プロジェクトに関わる。

→2017 年 12 月 20 日に次年度理事長方針とともに職員へ公開した。

⑤日本デザイン振興会主催 2017 年度グッドデザイン賞プロジェクト、グッドキャリア企業アワードプロジェクトに参画。

情報部・情報管理課

■部長

山野辺 裕二

■課長

小澤 竹夫

■ 2017 年度のトピックス、実績

今年度はマンモビューワの新規導入や画像関係のモダリティ接続などの画像診断関係のシステム案件に数多く対応してきた。またカルテコ導入サポートや原価管理システムの導入サポート、術中管理システム等、数多くの部門システムの導入にも対応した。

■事業報告

- ①PHR（カルテコ）や原価管理システムについてはシステム稼働はしたが、システム展開が今後の課題になっている。
- ②施設間ネットワークの見直しを行い、費用対効果を高めたうえで、冗長化などの通信システムの安定化も図るなど、システム全体の安定度を高めることができた。
- ③術中管理、看護支援システムの導入支援を行い、導入スケジュール通りに問題なく本稼働できた。

教育研修委員会

■委員長

進藤 浩美

■2017 年度のトピックス、実績

新たに、役職、職種を考慮した BSC 導入の研修、ファシリテーター研修を 14 回実施した。

医師	課長	係長	20年	5年	新採	転換	合計
2	4	4	1	1	1	1	14

■事業報告

- ①役職者に対して、昇格者 2 回、課長以上 2 回、係長 2 回の研修を実施。
- ②採用オリエンテーション研修として、医師 4 回、新採・フォローアップ 4 回、正職員転換 2 回、中途採用 12 回実施した。

広報委員会

■委員長

村守 隆史

■2017 年度のトピックス、実績

年度前半は Keiju Monthly Letter にて前年に引き続き女性医師紹介シリーズを行い、開業医の先生方の勉強会参加につながった。年度後半は一般向けに PHR の広報をサイネージや勉強会を通じ行った。

TQM 委員会

■委員長

進藤 浩美

■2017 年度のトピックス、実績

発表演題は、他部署との連携での活動が 73%を占める。

TQM 演題発表数

	前期	後期	合計
他部署との共同活動	11	11	22 (73%)
単独部署活動	4	4	8 (27%)
合計	15	15	30

■事業報告

- ①委員で進捗管理し、年 2 回の TQM 大会を運営した。
- ②TQM 発表大会で職員周知内容
前期 理事長今年度方針 董仙会ミッション
バランストスコアカードの導入と QOL 経営の実践
後期 理事長来年度方針 董仙会中期計画

福利厚生委員会

■委員長

安井 智美

■2017 年度のトピックス、実績

職員への情報提供も福利厚生の一環であると考え、毎月勉強会や教室を開催した。

忘年会では、当日のショートムービーと一年を振り返るスライドショーを上映した。

■事業報告

7 月：七尾港まつり総踊り

- 董仙会全体で 200 名の参加申込
12 月：けいじゅヘルスケアシステム大忘年会
→董仙会 362 名、徳充会 138 名、
パートナー企業他 45 名、合計 545 名
勉強会概要：ゆかた着付け教室、確定拠出年金、
60 歳からの働き方 など

病院・施設会議

■委員長

吉田 茂和

■2017 年度のトピックス、実績

- ・患者や利用者の治療や療養が、できるだけ迅速かつ円滑に実施できるよう、定期的に情報共有を行った。
- ・各施設の強みや弱みを相互に理解し、これまで困難とされてきた利用者の受け入れを積極的に検討した。

■事業報告

①介護連携指導料算定数

→634 件で前年度より - 4 件

②介護事業所

CPAP 療法 – 受け入れ 3 名, HOT – 受け入れ 1 名

地球温暖化対策推進委員会

■委員長

安井 智美

■2017 年度のトピックス、実績

照明器具の更新、蒸気ボイラー他の修理・更新が必要な場合はエネルギー使用量削減効果を期待して、原則、高効率のものを採用した。

外国人職員受け入れプロジェクト会議

■委員長

進藤 浩美

■2017 年度のトピックス、実績

IMS グループとの連携、瀋陽医学院プロジェクトにより、中国人看護師が 9 名となった。

	2015	2016	2017	合計
IMS	3	3	1	7
瀋陽	0	2	0	2

■事業報告

①瀋陽医学院看護学科に訪出し、2018 年来日者を面接し、2019 年採用 6 名を決定した。また、2019 年来日予定者の日本語能力を確認した。すでに日本語 1 級をとったものが、2 名いた。

②IMS グループにおいては、2018 就職 2 名予定である。

けいじゅ FM 委員会

■委員長

坂下 純司

■2017 年度のトピックス、実績

施設管理（改修・修繕・保守）に関する議題は、269 にのぼり、法人施設の管理を行なっている。

■事業報告

- ①本院 3 病棟 3 階廊下の壁面を新しく白のクロス貼りにし、明るい環境となった。
- ②鶴友苑のトイレ 3 箇所を洋式に改修した。
- ③恵寿鳩ヶ丘の居室のうち 24 部屋の壁紙の張替を行った。
- ④恵寿総合病院内の案内表示に英語表記を取り入れ、外国人利用者にも対応。

けいじゅ清掃委員会

■委員長

坂下 純司

■2017年度のトピックス、実績

オリックス清掃員の制服が今年度より刷新され、チョコレート色のポロシャツ、エプロン、帽子となった。

■事業報告

- ①日常清掃のほか、各施設においても床洗浄、ワックスかけの特別清掃を年間予定を立てて実行。
- ②本院の退院・転室に伴う病室清掃は、月平均 903 件であった。（前年度比 8.4%増）
- ③本館の床メンテナンスを毎週日曜日に実施中。

けいじゅヘルスケアシステム給食戦略会議

■委員長

進藤 浩美

■2017年度のトピックス、実績

- ・セントラルキッチンデリカでは、メニュー変更を行い、食材調理方法を見直し、水光熱費と包装材費の大幅削減を行った。
- ・米の高騰により、本院は「新潟こしひかり」から、石川県産「夢みずほ」に変更した。

■事業報告

- ①グルメプラザ恵寿の健康食を検討した。
- ②デリカサプライセンターの生産性を上げるため、増築検討、省エネルギー検討した。
- ③日帰りデイサービス「いこい」についても地域住民の避難所となり得るため、非常時の食事備蓄を整備した。

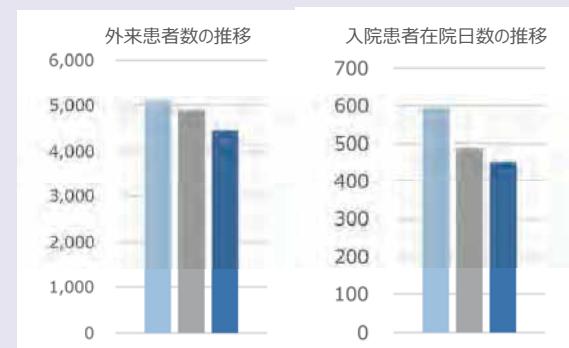
形成外科

■所属医師

山野辺 裕二

■2017年度のトピックス、実績

過去3年間の外来受診患者数（左）、入院患者在院日数（右）は減少傾向であるが、手術件数や診療点数は従来と同等もしくは漸増しており、外来・入院の効率化を進めた結果、通院回数や待ち時間等の減少を実現した。



恵寿総合病院

■事業報告

- ①手術用顕微鏡を使ったマイクロサージャリーの手術件数が増加した。
- ②外来でのクレームや待ち時間増による受診断念患者ゼロを達成した。
- ③局所の写真撮影にタブレット端末を利用することで、カルテへの写真貼り付けを容易にするとともに、患者へ写真を見せながらの説明ができるようになった。
- ④非常勤医師による手術件数を増やす試みが効果を発揮してきた。
- ⑤看護師向けに創傷処置等を指示する内容の定型化、具体化により看護師へのタスクシフトを推進することができた。

整形外科

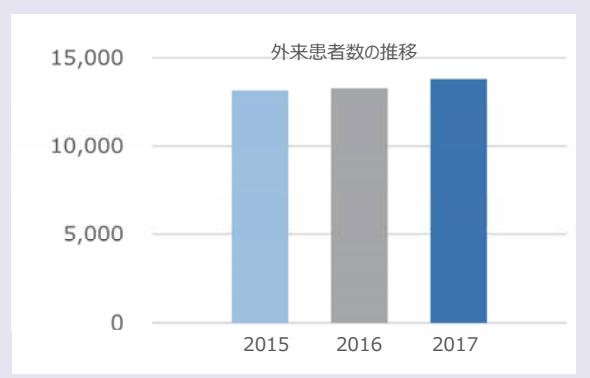
■所属医師

津山 健、森永 敏生、藤巻 芳寧、宮田 岳人
金山 智之

■2017年度のトピックス、実績

今後も増加する、骨粗鬆症患者の受け入れを積極的に行つた。高齢者が多い地域であるため、重症でなくとも、入院治療を提供できるよう、精査入院の手順などを作成した。また、病院が持つリハビリ、栄養、医師のインフォームドコンセントなどのリソースを最大限に利用した。

外来患者数は増加傾向にある。手術、保存的加療など患者さんの納得が得られる治療方針を決定している。



■事業報告

9月末と3月末で医師の交代があったため、外来診療枠や手術の受入れに影響がでてしまった。
疾患の大半をしめるのは、大腿骨近位骨折、脊椎圧迫骨折である。手術治療の対応と、骨粗鬆症患者の受入れを積極的に行っている。

内科

■所属医師

山崎雅英、宮森弘年、宮本正治、羽山智之、足立浩樹、酒井珠美、材木義隆、笠田篤郎、小西正剛、松浦寿一、久保幸美、加瀬一政、小川尚彦

■2017年度のトピックス、実績

- ①日本内科学会総合内科専門医（2名）、日本老年医学会指導医（2名）、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）（1名）が新たに誕生
- ②外来受診者数も3.3万人とここ3年で最も多く、入院延在院数も4.58万人と飛躍的に増加



■事業報告

- ① 地域連携（紹介・逆紹介）の推進、
- ② 消化器内科、循環器内科、神経内科、血液浄化センター、家庭医療科と連携、専門的医療の質の向上→外来受診者数も3.3万人とここ3年で最多、入院延在院数も4.58万人と飛躍的に増加。
- ③ 呼吸器内科、血液内科など、能登地区で当院にしかない専門内科の充実
- ④ 代謝内科と腎臓内科の連携による糖尿病性腎症進行予防、透析導入症例の減少を目指した活動の推進
- ⑤ 七尾地区に唯一の内分泌代謝内科専門医による診療
- ⑥ 専門性の高い臓器別内科、他診療科との密な連携により、金沢に行かなくても高度な診療ができるよう推進→糖尿病性腎症患者の透析導入率の低下
- ⑦ 今後は内科医師の増員を要望するとともに、限られた人的資源を有効利用するため、医師補助者へのタスクシフティングを積極的に進めていき、地域から求められる医療を積極的に推進していきたい。

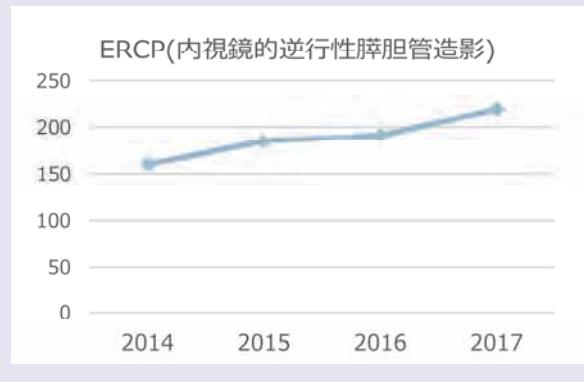
消化器内科

■所属医師

渕崎 宇一郎、松田 昌悟、宮澤 正樹

■2017年度のトピックス、実績

- ・内視鏡総件数は昨年を上回った。特に治療内視鏡（胆管系・ERCP 関連手技）は大きく増加した。
- ・総合内科専門医を取得した（2名）
- ・学会発表（地方会、消化器病総会、米国 DDW）
- ・論文掲載（PloS One、Gastroenterology）



■事業報告

- ① 内科（血液内科、呼吸器内科、腎臓内科、循環器内科）、家庭医療科および他診療科との緊密な連携のもとに的確な診断、専門的な治療を行っている。
- ② 今年度も講演会・勉強会を開催した。
講師：金沢大学消化器内科教授 金子 周一、同准教授 水腰 英四郎、厚生連高岡病院総合診療科診療部長 狩野 恵彦、日本大学医学部消化器肝臓内科学教授 後藤田 卓志、富山県立中央病院内科部長 松田 耕一郎、国立国際医療研究センター国際感染症センター 忽那 賢志、NTT 東日本関東病院内視鏡部長 大圃 研、日本医科大学消化器内科学教授 岩切 勝彦先生をお招きして講演会・意見交換会を行い、最新の情報や治療について学んだ。
- ③ 能登地区において専門的治療を行うセンターとしての役割を担っている。消化器内科として地域に根ざした信頼される医療を提供していくと同時に、今後も積極的に先進的な治療を導入して地域に貢献できるように努力していきたい。

耳鼻咽喉科

■所属医師

山田 和宏

■2017年度のトピックス、実績

総外来患者数が 7,422 人に増加(前年度 7,125 人)。
新患数が 885 人に増加(前年度 766 人)。



■事業報告

- ① 必要な検査を積極的に行う。
 - ファイバースコピー : 1,344 件(前年度 1,252 件)
 - 聴力検査 : 1,179 件(前年度 919 件)
 - MRI : 200 件(前年度 174 件)
 - ② 他科や各部署との連携をはかり安全で信頼される医療を提供する。
 - 臨床工学課と連携し鼻内視鏡手術を 11 件行った。
- ＜今後の課題＞
- 引き続き、院内他科や各部署、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科との連携をはかり、安全で適切な医療を提供する。
ファイバースコビー、各種画像検査、聴力検査など、必要な検査を積極的に行い、診断の精度を向上させる。

眼科

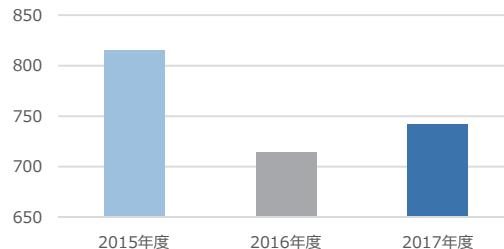
■所属医師

馬渡 嘉郎

■2017年度のトピックス、実績

白内障手術以外の眼科手術の充実。具体的には硝子体、眼瞼、緑内障手術の定期的実施が定着しつつある。能登地区で唯一上記手術を定期的に実施している。そのなかでも特に硝子体手術に注力することができた。

手術件数の推移



■事業報告

- ①手術件数総数（主に白内障） 約 700 件
- ②硝子体手術 約 30 件、眼瞼の手術 約 10 件、
緑内障手術 3 件
- ③今後は硝子体手術を中心に白内障手術以外の手術に
注力。また片眼 1 泊 2 日や日帰り白内障手術を多く実
施していく予定。

泌尿器科

■所属医師

川村 研二

■2017年度のトピックス、実績

術後回復強化プログラム（ERAS）を2012年から750例行い、患者満足度調査 QOR40J アンケート調査を行った。結果は満足度 93%であり、泌尿器科内視鏡手術、腎臓癌・前立腺癌の内視鏡・開腹手術では患者が満足していることが明らかとなった。上記について、金沢医科大学氷見市民バス大会講演、全国規模の学会座長 2 回、学会発表 17 回／年等で、全国の泌尿器科において指導的立場として ERAS 手術の啓発活動を行っている。

また、恵寿総合病院において恵寿総合病院医学雑誌で論文執筆指導（6 編）を行い、学術的な知識の向上を目指す活動を継続できた。

■事業報告

手術件数 136 件（手術室のみ）、ESWL38 件、外来手術 8 件 合計 182 件であり、手術件数も維持している。能登半島の過疎化地域である七尾においても、最新の手術手技、がん治療を行えることが重要である。今後の課題は、過疎化地域における人口減少で手術対象患者の急激な減少が予測される。奥能登地域では、男性高齢者の人口がすでに減少しており、当地域でも 3 - 5 年後には、男性高齢者が減少して、泌尿器科診療対象患者も減少する。現在、奥能登からの高齢手術依頼患者の 70 %以上が女性であり、七尾地区でも同様の推移が予測される。新たな診療として、性同一性障害、排尿自立支援について 2018 年度に取り組む予定である。

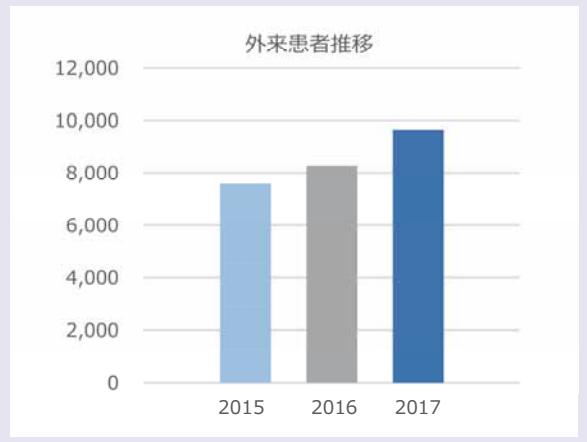
循環器内科

■所属医師

内山 勝晴、宝達 明彦、東 雅也

■2017年度のトピックス、実績

常勤医3名体制により、24時間・365日の受入れを行った。外来患者数、延在院患者数とも増加傾向で推移している。能登北部からの紹介や緊急搬送も多く、同地域医療機関との連携も積極的に行っている。



■事業報告

今期目標と達成度

今年度も地域連携室の協力の下、輪島地区・宇出津地区の各病院/診療所と連携の会を開催したい。

虚血性心疾患のみならず、循環器疾患全般において対応を強化している。

His束ペーシングやリードレススペースメーカー挿入など、当地域においては初となる技術を導入している。

救急患者の受け入れや紹介症例を増やし、ロータブレータの施設基準となるPCI 200症例以上を何とか達成したい。

心臓血管外科

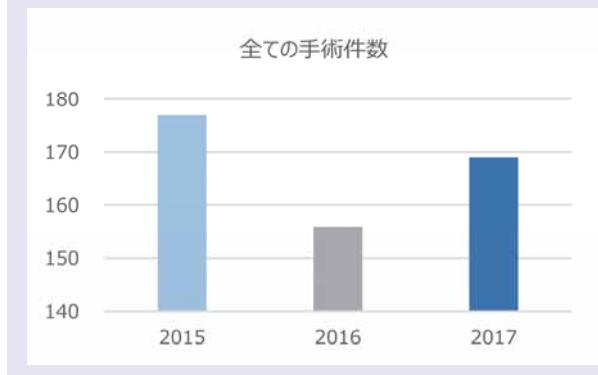
■所属医師

西澤 永晃、中嶋 和恵

■2017年度のトピックス、実績

能登地区唯一の血管外科として、心臓バイパス手術をはじめ、弁置換術や下肢静脈瘤手術に力を入れている。また、透析患者におけるシャント血管増設や急性閉塞にも対応している。

開心術をはじめとするすべての手術件数は増加している。



■事業報告

・開心術は増加しているが、透析患者など高リスク患者の割合も増加している。入院に数は長くなる傾向は否めないが、患者の安全を第一に心がけており、ハートセンター病棟のスタッフ、心臓リハビリのスタッフとともに慎重な術後ケアを行っている。

・循環器内科との連携により、虚血性心疾患やペースメーカー対象疾患などに対して、最善の治療方法を提供している。

・レーザーを使用した下肢静脈瘤手術も積極的に行っている。地元でも出来る治療方法として広くPRしていきたい。

・超高齢者人口はここしばらく増加が見込まれる。弁膜症や虚血性心疾患の手術の需要も見込まれるが、難易度も上がる事が予想される。高齢者に対しても安全な治療を提供するために努力を続けていく。

麻酔科

■所属医師

長谷川 公一、櫛田 康彦、三好 恵美奈

■2017年度のトピックス、実績

〈トピックス〉手術期管理システムを本格運用を開始し、麻酔記録等がペーパーレス化「患者に背を向けない」診療を行った。また、院内他部署から手術の進行が確認でき情報の共有が行えるようになった。

〈実績〉手術麻酔

麻酔科管理数 855 件（前年 995 件）

総麻酔時間数 2882 時間（2989 時間）

周産期医療

帝王切開 64 件（68 件） 無痛分娩 25 件（33 件）

ペインクリニック、緩和医療

ペインクリニック外来患者数 587 名（625 名）

緩和ケアチーム対応患者数 32 名（34 名）

■事業報告

外来患者数は増加傾向が続いている。超音波検査、ダーモスコピーなど生体検査も増加している。薬剤による皮膚障害（薬疹、点滴漏れなど）への対応の依頼も多数あり、迅速に対応するようしている。

ナローバンド UVB 照射装置への入れ替えも特にトラブルなく、患者増加傾向。

外来で手いっぱいでもあり、当科入院患者が少なかったため総売上が上がらず。外来入院ともかなり他科より対診が多く、併診している患者が多いため、医療の質としては高くなるのだろうが、業績として数字にむすびつかない。

他科入院患者のスキンケア・フトケアは要望が多く、生活指導も丁寧に行うようにしている。

リハビリテーション科

■所属医師

川北 慎一郎、平井 文彦、伊達岡 要

■2017年度のトピックス、実績

認知症ケアチーム加算（月約 100 件維持）

リハ処方数の増加（グラフ）疾患の変化あり

回復期リハビリ病棟専従医師加算

回復期病棟紹介入院患者増加（年間 50 例）



■事業報告

① リハビリ新患者処方数

月平均 200 件（週平均 50 件：脳外科減少）

② ものわすれ外来紹介数

月約 2 人：横ばい

③ ボツリヌス注射施行数

月平均 6 人：横ばい

④ 嘸下造影（VF）数

月平均 6 人：横ばい

⑤ 自動車運転評価数

月平均 9 人：横ばい

⑥ 認知症ケア回診

月平均 7 人

⑦ 回復期病棟転院

月平均 4 人で増加

消化器外科

■所属医師

佐藤 就厚、高井 優輝、中山 啓

■2017年度のトピックス、実績

今期目標の中で、肝切除数を除いて、腹腔鏡を中心とした目標手術件数に到達できた。消化器外科医が少なく、一人当たりの業務、拘束時間が増え、時間内外の業務負担が増大している中でも、入院治療に集中できる環境整備に努めた成果と考えられた。



■事業報告

今期目標と達成度

- ① 全麻手術件数を 250 件→2 月まで 228 件（前年度計 240 件）でほぼ達成（消化器外科・乳腺外科計）
- ② ①のうち腹腔鏡手術割合を 70%→2 月まで 70.7%（乳腺手術を除く）で達成濃厚
- ③ 肝切除術を 5 件/年→2 月まで 2 件で未到達
- ④ ヘルニア（鼠径・大腿・閉鎖）手術のうち、腹腔鏡下手術を 80%→2 月まで 85%で達成確実

来期目標

- ① 消化器外科として全麻手術を 210 件→
- ② 腹腔鏡手術を 160 件→
- ③ 肝切除術を 5 件/年→
- ④ 腹腔鏡下ヘルニア（鼠径・大腿・閉鎖）手術を 40 件

乳腺外科

■所属医師

鎌田 徹

■2017年度のトピックス、実績

2016 年度から乳腺外科を専門科として独立し、評判向上を図っている。乳癌手術例（4 月～3 月）は昨年 2017 年度 41 例に対して、今年度は 25 例と大幅に減少した（下図）。しかし、外来患者数は横ばいで、外来化学療法件数が増加したためと考えられる（下記）。



■事業報告

- ① 乳がんの手術件数、化学療法件数、放射線治療件数を増やす。
乳がん手術件数は前述した（図参照）。外来化学療法件数は 164 件から 191 件に増加、放射線治療件数は 27 件から 26 件と不变。
- ② 講演会・学会参加などにより標準治療・ガイドラインを熟知する。
2017 年 6 月に日本乳癌学会にて発表した。
- ③ その他
2017 年 3 月からフラットパネル式のマンモグラフィが導入され、画像の質向上・被爆量減少・撮影時間短縮などが計られている。

脳神経外科

■所属医師

岡田 由恵、東 壮太郎

■2017 年度のトピックス、実績

100 人規模の多職種による SU(Stroke Unit)カンファレンスを継続的に実施した。医師以外は、PT、OT、ST、MSW、看護師、管理栄養士、薬剤師などが参加した。

SU カンファレンス実施一覧

疾患名	件数
アテローム血栓性脳梗塞	9
心原性脳塞栓	2
ラクナ梗塞	2
その他脳梗塞	5
脳出血	11
その他	4
合計	33

健康管理センター

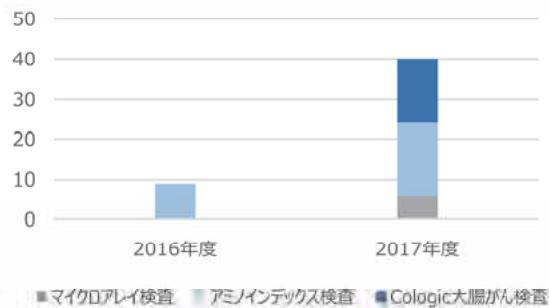
■所属医師

倉知 圓、泉谷 麻子

■2017 年度のトピックス、実績

7 月より、血液によるがん検査として、「マイクロアレイ検査」、「アミノインデックス検査」に加え、「Cologic 大腸がん検査」を新たに導入した。血液によるがん検査として、前年度に比べ 3 倍以上の件数となった。

血液によるがん検査



■事業報告

- ① 医師数減の中で、外来、救急医療を継続し入院患者数を 25 – 30 名で維持してきた。
- ② SU カンファレンスを脳外科だけでなく、リハビリ科 23 例、神経内科 4 例、その他透析科や家庭医療科の症例も多職種で、検討した。

■事業報告

- ① 血液によるがん検査拡張
「Cologic 大腸がん検査」を新たに導入したことでの、前年度比 3 倍以上の件数に増加。
- ② 行政との連携強化
七尾市ふるさと納税返礼品受入れに関して、HP 上で 1 社から 2 社へ拡張したことでの、前年度比 7 倍以上の件数に増加。
- ③ 健康診断後のフォローアップ体制構築
ここ数年行えなかった特定保健指導に関して、全国健康保険協会石川支部と契約し、該当者へ面接指導などを実施した。現在 5 名程度継続実施中。
- ④ 外国人受入れ体制構築
受入れルール整備、コミュニケーションツール使用などにより属人化しない受入れ体制を構築。語学力向上とし、一般社団法人日本医療通訳協会の医療通訳士 1 級（英語）を取得。
- ⑤ かがやき健康宣言、健康経営優良法人取得に向けて、協会けんぽとの連携を密にした。

小児科

■所属医師

柳瀬 卓也、中谷 茂和、白橋 徹志郎

■2017年度のトピックス、実績

外来患者数 5,511人→5,939人：7.8%の増加
平日外来 4,645人→4,786人：3%の増加
夜間休日時間外 866人→1,153人：33.1%の増加
時間外外来診療患者が著しく増加。
一般小児科入院患者 2人→18人増加
紹介患者 52人→79人 51.9%増加



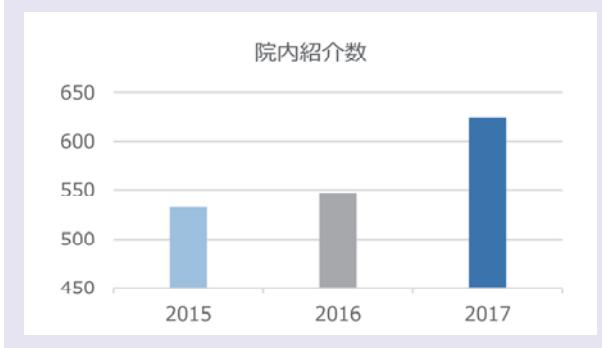
皮膚科

■所属医師

南部 昌之

■2017年度のトピックス、実績

外来患者は増加。細菌・真菌検査やダーモスコピー検査は積極的に行う。大学等との病診連携は問題なく行えている。生物学的製剤使用患者数は残念ながら横ばい。しかしバイオスイッチや免疫調整薬の導入も行い患者満足度は増加。皮膚科としての入院患者は増加していないが他科入院で併診の患者多数認めており迅速な対応は行なえている。



家族みんなの医療センター

■所属医師

新井 隆成、吉岡 哲也、伊達岡 要、高藤 早苗、
安田 豊、高多 祐佳、宮田 康一、宮田 潤

■2017年度のトピックス、実績

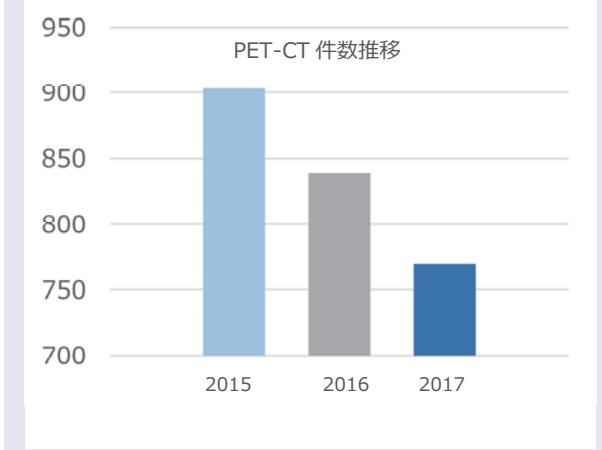


放射線科

■所属医師

角 弘諭

■2017年度のトピックス、実績



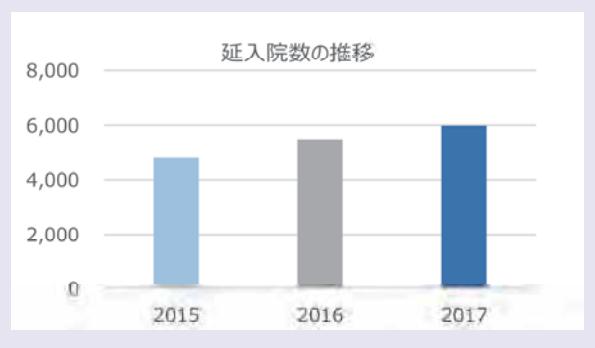
神経内科

■所属医師

木元 一仁

■2017年度のトピックス、実績

1名体制で、脳神経外科と協力し、救急・紹介患者を受け入れた。認知症外来もリハ医、非常勤医師とともに実施、認知症回診は月平均のべ1,960件実施、NST回診も月平均66件を実施した。七尾市在宅医療・介護連携推進協議会、紫蘭の会、能登神経筋疾患難病ネットワークなどに積極的に参加した。



救命救急科

■所属医師

米田 高宏

■2017年度のトピックス、実績

「断らない救急」の体制で患者受け入れを行った。
入院率は51～66%で推移した。



中央手術部

■部門代表者

長谷川 公一、金森 敦志

■2017年度のトピックス、実績

手術期管理システム本格運用を開始

麻酔、看護記録等が電子化し「患者に背を向かない」医療を実践できるようになった。患者入退室管理や、スケジューリングが、安全に効率よくでき、ベッド稼働率の向上が期待できる。また、院内他部署と、患者情報や手術進行状況などの情報がリアルタイムに共有でき、術前から術中、術後へ、患者中心のシームレスな管理が可能になった。

〈実績〉

手術総数 1,567 件（前年 1,748 件）

麻酔科管理数 855 件（前年 995 件）

緊急手術率 33%（前年 30%）

血液浄化センター

■部門代表者

羽山 智之、菅野 則之

■2017年度のトピックス、実績

透析システムのIT化によるデータ管理の実現と透析コンソールと電子カルテの連動させていくための準備(2018 年度に実現予定)

■事業報告

①周術期管理システムを本年度より運用開始した。周術期医療の安全と質のさらなる向上を目指したい。

②手術数は 10%減少した。しかし、手術時間の総時間数は変化していない。これは高度な手術や内視鏡手術の増加のために、午前からの手術開始や手術室数の増加が対策として考えられる。

③手術看護師の休日拘束体制をとったが緊急手術の受け入れも円滑に行われ、急性期医療体制に貢献できている。

■事業報告

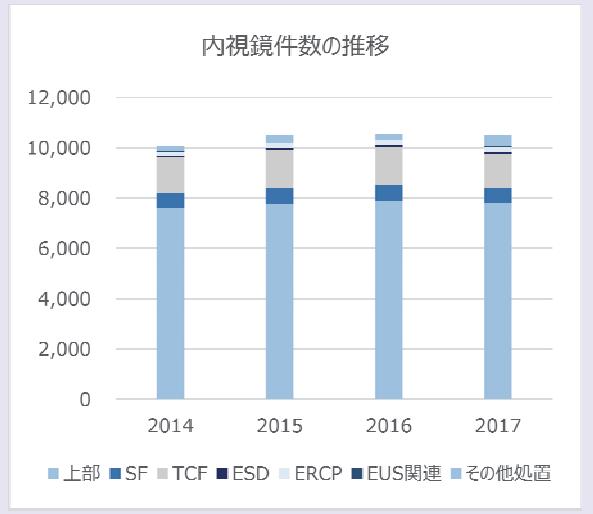
IT化を進め実現させていくことが 2017 年度の目標であった。トピックスにもあるように透析システムのIT化で確実なデータ管理が可能となったが、スタッフの仕事量の軽減に繋がるようなIT化の実現には至らなかった。電子カルテへの転記作業がなくなり、記録時間が短縮され、その分質の高い透析看護が提供できる環境を 2018 年度透析管理システム導入で作り上げていく。

内視鏡部（内視鏡課）

■課長

松田 栄美子

■2017年度のトピックス、実績



■事業報告

① 内視鏡総件数昨年と同等数維持している。

能登最先端の治療を提供している。

EUS-FNA 35 件（昨年 10 件）

ERCP 関係 221 件（昨年 165 件）

② 大腸検査の自宅飲みの推奨。

2017 168 件

2018 357 件

患者満足度の向上と大腸検査に伴うランニングコストの減少に繋がった。

③ マンパワー不足により遅番性を取り入れた勤務体制の構築ができなかった。しかしマンパワー不足でありながら昨年と同等 1 万件達成できた。

④全日本病院学会で発表

消化器看護「がん・化学療法・内視鏡」で

「緊急内視鏡的異物除去術の介助のポイント」執筆。

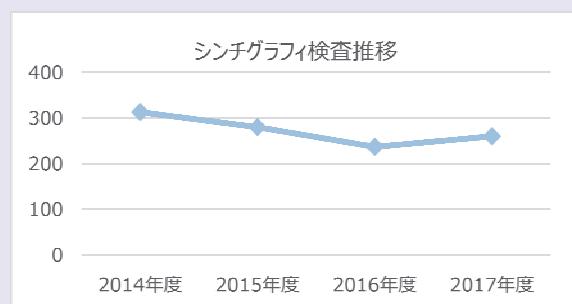
放射線部（放射線課）

■課長

三味 篤

■2017年度のトピックス、実績

ガンマカメラを更新し、操作性が向上し、画質も格段に上がっている。安全機能も備わっており、より安心して核医学検査を受けられるようになっている。3 年連続減少傾向であった核医学検査は上昇に転じている。



■事業報告

① ガンマカメラの更新で画質向上により診断能が向上。

骨シンチグラフィの診断支援ソフト BONENAVI の導入により経過観察に効果的となった。

② 外科用イメージを更新し、透視画質が向上したことにより、手術中の手技をスムーズに支援できるようになった。

③ 画像カンファレンスを実施し、放射線技師の読影力を強化を進めた。画像所見レポートが入る前に緊急的な報告を積極的に行い、また放置された異常所見を指摘することにより、6 症例が緊急的な検査および手術につながった。

④ 全日本病院学会 in 石川で学会発表 3 演題発表。また、拡大業務講習会受講者 1 名、健診マンモグラフィ認定技師 2 名、肺がん CT 検診認定技師 1 名が取得。

⑤ 造影剤同意書取得の業務見直しを行い、検査説明書と問診票の取得を行った。同意書書式の変更と院内全体の実運用化へ向けて整備していく。

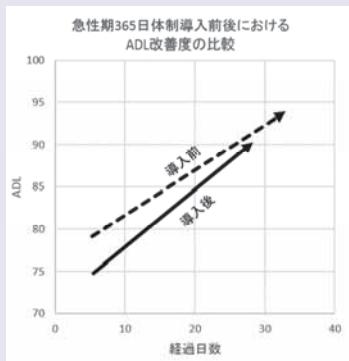
リハビリテーション部（理学療法課）

■課長

井舟 正秀

■2017年度のトピックス、実績

全日本病院学会 in 石川を含め学会発表は8題発表し、そのうち、1題は論文投稿に繋ぎ、他の論文と合わせて2編となった。投稿論文の一つである急性期リハ 365日体制導入効果の検証ではADL改善度を保ちつつ在院日数が6日短縮するという結果であった。



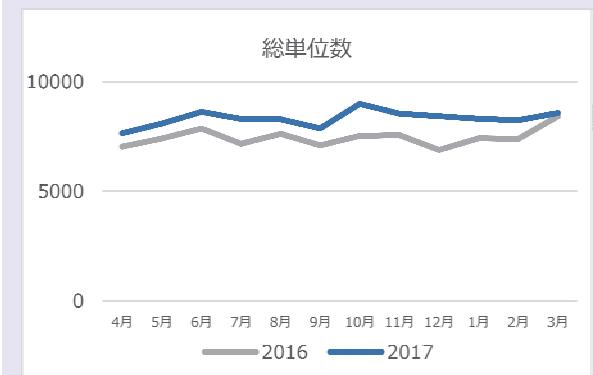
リハビリテーション部（作業療法課）

■課長

川上 直子

■2017年度のトピックス、実績

スタッフ2名増員し、急性期（本館）の土日祝日が3名体制で作業療法を提供できるようになった。これにより、単位数はもちろん、作業療法士1名当たりの月平均単位数も2016年352単位→2017年369単位と增加了。



■事業報告

【学習と成長の視点】

全日本病院学会 in 石川には一般演題発表、学会運営にも関わった。他の学会も含め8題発表。その内、論文作成に繋げたのは1題、論文投稿1題。研修会参加142件、周辺資格取得15件、勉強会53件を実施し個々で自己研鑽を図った。今後も継続していきたい。

【業務の視点】

急性期から生活期の連携をさらに充実されるべく、老健一日研修、能登脳卒中地域連携症例検討会実施した。またTQMを通して通所リハ、訪問リハへの紹介・連携について取り組み、訪問リハへの紹介が向上した。

医療機能評価の準備として主な疾患の標準プログラムを追加・作成した。

【顧客の視点】

顔面神経麻痺や長下肢装具使用マニュアル等、各種説明資料の見直しにより患者・職員満足度の向上を図った。

総体的には目標に達した。

■事業報告

- ①1名あたりの取得単位 18単位/日→18.2単位/日
- ②日曜祝日の急性期OT開始→3名体制で開始
- ③回復期リハビリ病棟取得単位 7.5単位/患者（1日）
→7.4単位/患者（1日）
- ④患者、家族への治療の納得・理解向上
→自動車運転支援、CI療法の説明資料を修正
- ⑤医療リハと介護リハとの連携拡大、急性期、回復期、生活期の連携充実
→生活行為向上加算やスーパー元気アップ塾を通じての勉強会開催や対象者紹介等の連携
老健1日研修：6名
- ⑥全日本病院学会 in 石川へ積極的参加
発表だけでなく、論文を作成する意欲を奨励する
→全日本病院学会発表3題、他の学会等でも7題発表
論文投稿2題

リハビリテーション部（言語療法課）

■課長

諏訪 美幸

■2017年度のトピックス、実績

回復期リハ病棟の患者一人当たりの取得単位数を7.5とし取り組んだ結果、7.95（達成率 106%）であった。言語聴覚士1名当たりの月平均単位数は、前年度347→今年度は362単位（4.3%）と増加した。



■事業報告

- ① スタッフ2名増員→3名退職→5名
- ② 回復期リハ病棟の取得単位数：目標→7.5 単位/患者→7.95 単位/患者（106%増）取得月単位数/療法士：347 単位→362 単位(4.3%増)
- ③ 日単位数/療法士：17 単位→18 単位
- ④ 摂食機能療法総件数：8817 件→8809 件(0.1%減)
- ⑤ 心理：心身医学療法など：52件/月(達成率70%)、心理検査件数：38件(達成率71.6%)
- ⑥ 患者・家族の理解度向上：嚥下評価結果などを理解度評価シートを用いて説明→全て理解できたと返答がった件数は51/51例（100%）。
- ⑦ 論文：日本音声言語医学会誌1編投稿、発表：全日本病院学会in石川：1題、参加3/7名、アジア環太平洋音声言語聴覚学術集会：1題、他：全国学会：2題、北陸：3題 県：1題、研究会：1題
- ⑧ 今後の課題：経験年数が浅いSTが半数以上を占める為、人材育成を重視し顧客満足度に繋げていくことが課題である。

薬剤部・薬剤課

■部長

川村 研二

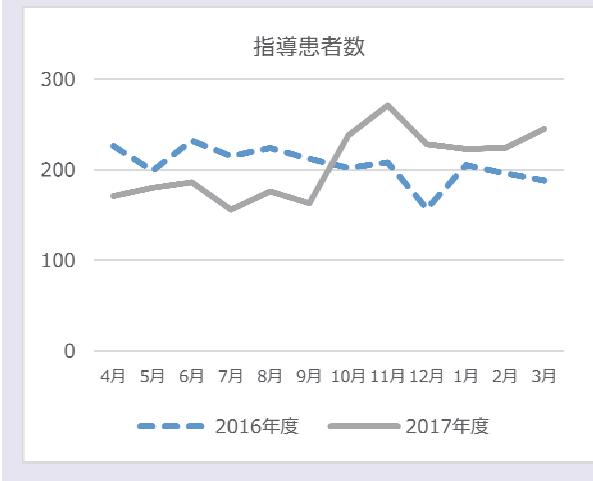
■課長

藤田 昌雄

■2017年度のトピックス、実績

服薬指導患者数

2016年 2,464名→2017年 2,461名



■事業報告

目標と達成度

- ① 服薬指導患者数

2016年 2464名→2017年 2461名

- ② 病棟薬剤業務件数

2016年 17508件→2017年 17502件

- ③ 持参薬鑑別件数

2016年 5719件→2017年 5238件

- ④ 糖尿病薬物療法准認定薬剤師 1名

実務実習指導薬剤師 1名

病院薬剤師生涯認定薬剤師予定 2名

学会発表 3件、

論文 1編

※新人教育しながら指導患者数を増やした。

※厳しい人數の中で病棟薬剤管理業務の継続

※すべての入院患者の持参薬の鑑別を行った

※12月から3月にかけて薬学生の実習を受け入れた

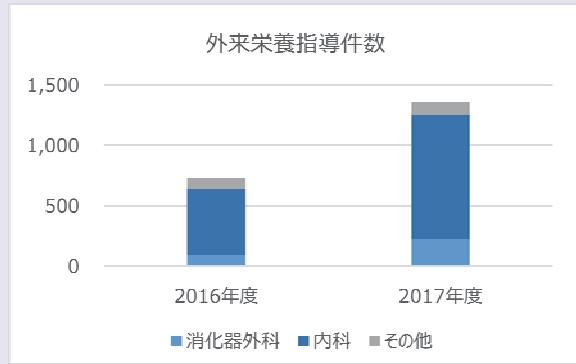
臨床栄養部（臨床栄養課）

■課長

前田 美穂

■2017年度のトピックス、実績

外来の栄養指導の件数増加を図った。特に、消化器外科の術前術後と、外来化学療法の患者も対象として介入した。従来の糖尿病等の内科疾患の件数を低下させないよう努めた。



■事業報告

①外来の栄養指導件数の増加

→外来全体の件数は前年度 731 件から 1,357 件 1.8 倍の増加となった

②消化器外科の術前術後の栄養指導介入

→消化器外科の栄養指導件数は 2.3 倍の増加

③がん化学療法の患者への栄養指導介入

→呼吸器内科、血液内科の患者を対象とすることで、代謝疾患が大半だった内科の件数を増加させた。

④外来担当栄養士の配置

→前年度までは病棟の担当を曜日ごとに当番制にしていたが、今年度は外来に専念するための 1 名の担当を配置したことで業務改善、および実績に対しても効果を得た。

臨床検査部（臨床検査課）

■課長

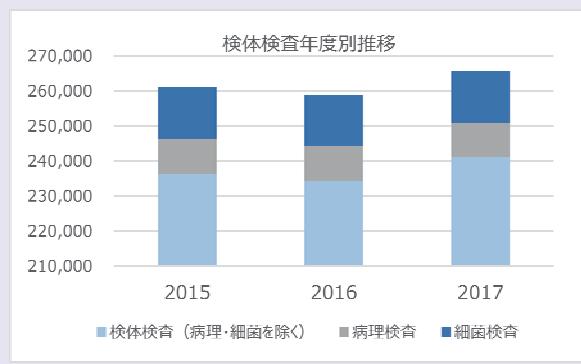
谷内 正人

■2017年度のトピックス、実績

検体検査全体としては、増加傾向に有った。

検体検査（外注検査を含む）総数では 265,545 件で昨年実績より 2.6% の増加を認める。

I & A 輸血認証取得を取得した。



■事業報告

1) 検体検査件数、昨年実績比較（詳細）

①検体検査（細菌・病理を除く） 240,948 件 2.9% 増

②細菌検査 14,611 件 0.1% 微増

③病理検査 9,986 件 0.8% 増

2) 本年度は、病院機能評価 3rdG を受審した。受審に連動して輸血機能評価認定制度（I & A 制度）を受審した。輸血療法委員会と協働で認定証を頂いた。

3) 医師の事務的作業軽減の一つとして用紙依頼の検査項目を電子カルテから入力出来る様に検査マスターを更新した。（特に血液疾患関連や遺伝子検査など）

4) 超音波検査の待ち時間の軽減として予約サーバーの活用を医師事務秘書と共有したルールを取り決めた。

また、婦人科超音波（胎児エコー）は毎週月曜日の午後を腹部エコー室を共同利用している。

5) 当直マニュアルの整備、BCP 対応として TQM 活動の一環としてマニュアルをビデオ化した。

6) 病院最適化として放射線技師の業務拡大として腹部エコー検査を協働出来る様に研修した。2 月より検診センターで腹部エコー検査をローテーションで実施している。

臨床工学部（臨床工学課）

■課長

四藏 勇一

■2016年度のトピックス、実績

OPE 室、内視鏡室の技術サポートの拡大とスタッフの養成を目標としていたが、スタッフの減少によりサポートが不十分となってしまった。

また、2017 年度中に医療機器の棚卸を実施すべく調査、準備を行ってきたが、棚卸を実施することができなかった。

■事業報告

- ① 病院 BCP に基づいた行動計画指標の充実
→病棟用災害時アクションカードの作成をサポート
達成度 100%
- ② 医療機器の棚卸
→登録機器の資産分類まで済。棚卸未実施。
達成度 20%
- ③ 学術集会での 4 演題以上の研究発表
→日本透析医学会学術集会に 1 演題、
全日本病院学会に 4 演題、発表を行った。
達成度 100%
- ④ 手術部門・内視鏡部門への人材投入と、そのための教育の実施
→スタッフ現象によりサポートが不十分となっている。
達成度 0%

今後の課題：引き続き各部門技術サポートの為の人材育成。引き続き医療機器の棚卸の今年度中の実施

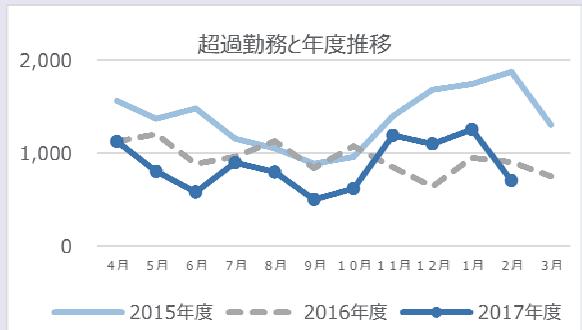
看護部

■部門代表者

本橋 敏美

■2017年度のトピックス、実績

- WLB 取り組み：2交代勤務 10 病棟で実施、
- * 働き方改革：賞与ポイント制導入、働き方制限者減少
 - * 看護方式：PNS 導入 2 年目、成果発表実施
 - * 超過勤務減少（応援体制、2交代勤務、人材育成）
 - * 災害時対応アクションカード作成、訓練実施



■事業報告

- ① WLB を考える
→HCU 以外の病棟は、2交代勤務（10／11）実施。
申し送りや記録にかかる時間が短縮され、超過勤務が減少した。また、正循環勤務実施により、勤務と勤務の間隔が 11 時間以上空き、疲労感が軽減している。勤務シフトでは、まとまった休みが多くなった。
- ② 働き方改革：賞与に加算ポイント制を導入。
→働き方に制限がない職員に手厚い待遇。49 名の職員が、何らかの制限を解除した。
- ③ PNS 看護方式 2 年目
→PNS プロジェクトチームの活動、PNS マインドの研修。成果発表。PNS の定着が先行している部署による、他部署職員の研修受け入れを実施。
- ④ 退院支援看護師の育成
→法人内老健施設への研修を実施し、急性期病院から、老健施設へ退院する時の退院支援を強化。
- ⑤ 災害時アクションカード作成と訓練の実施
→主任が中心となり、各部署の災害時アクションカードを作成。災害時、リーダー・誘導・応援者の役割の明確化。
※次年度の継続課題：育休中の職員へアプローチし、夜勤人員の減少をくい止める。

恵寿金沢病院

■病院長

上田 幹夫

■2017年度のトピックス、実績

- ・ジェネリック医薬品の更なる導入を進め、後発医薬品使用割合は90%以上を維持している。
- ・当院を退院された患者さんに向けた訪問看護をスタートさせ、在宅での生活支援にあたっている。
(訪問看護事業開始)
- ・人間ドックセンター受検者に向けた環境整備を進めるとともに、受検者に向けたオプションメニュー10項目に加え新たなオプションメニュー3項目を追加し、サービス向上を図った。
追加オプションメニュー：腹部CT検査、大腸がんリスク検査
(コロジック)、アレルギー検査 (Viewアレルギー39)

■事業報告

目標と達成度

- ① 入院患者数：2.5万人（達成率：88.1%）
- ② 外来患者数：3.5万人（達成率：88.5%）
- ③ 人間ドック受検者数：1,614件
(対前年比：96.8%)
- ④ 全身麻醉手術件数：247件
(対前年比：115.4%)
- ⑤ 化学療法実施件数：4,199件
(対前年比：111.7%)
- ⑥ 無菌室利用件数：4,304件
(対前年比：88.3%)
- ⑦ 紹介件数：814件 (対前年比：99.0%)
- ⑧ 救急車受入件数：102件 (対前年比：86.4%)
- ⑨ 巡回インフルエンザ予防接種件数：1,582件
(対前年比：105.1%)

恵寿金沢病院

内科（恵寿金沢病院）

■所属医師

村田了一、佐賀務、山下剛史、宗本早織、松浦絵里香

■2017年度のトピックス、実績

新薬の投入が目覚ましい多発性骨髄腫に関して、金沢大学をはじめとした様々な大学や医療機関との間で複数の多施設共同研究に参加している。常に最新の治療レジメンを提供するとともに、日本独自の治療エビデンス蓄積に貢献している。豊富な治療経験と患者数によって、当院は同疾患の研究において国内で重要な施設の一つになりつつある。

■事業報告

- ① 入院患者数：19,600人（対前年比：97.7%）
- ② 外来患者数：11,300人（対前年比：98.8%）
- ③ 入院単価：対前年比：102.7%
- ④ 外来単価：対前年比：126.3%
- ⑤ 化学療法実施件数：4,199件
(対前年比：111.7%)
- ⑥ 無菌室利用件数：4,304件
(対前年比：88.3%)

整形外科（恵寿金沢病院）

■所属医師

横山 光輝、平田 寛明

■2017年度のトピックス、実績

病診連携をより密にすることで、金沢市内に限らず多くの医療機関より手術適応の方を紹介していただき、これまでで最も多くの手術件数を行うことができました。
紹介患者は可能な限り早期に手術・処置を行い、その後、紹介元に速やかに患者さんを逆紹介させていただくスピードのある医療を当科の特徴として、今後も病診連携を強めていきたいと思います。

■事業報告

- ② 入院患者数：5,700人（対前年比：125.1%）
- ③ 外来患者数：16,100人（対前年比：101.2%）
- ④ 入院単価：対前年比：103.9%
- ⑤ 外来単価：対前年比：98.3%
- ⑥ 全身麻酔手術件数：247件
(対前年比：115.4%)

眼科（恵寿金沢病院）

■所属医師

縹納 勉

■2017年度のトピックス、実績

新たに加齢黄斑変性症、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する抗VEGF薬硝子体注射治療（9件）に対応した。

医業収入は外来単価の伸びであり、前年比5%増加した。

■事業報告

- ① 入院患者数：270人（対前年比：94.7%）
- ③ 外来患者数：2,480人（対前年比：102.1%）
- ④ 入院単価：対前年比：100%
- ⑤ 外来単価：対前年比：122.3%
- ⑥ 局所麻酔手術件数：169件
(対前年比：114.2%)

看護部（恵寿金沢病院）

■部長

前大道 綾子

■2017年度のトピックス、実績

訪問事業を開始。開始当初は、外来部長、2月以降は、病棟看護師の訪問看護も実施。訪問看護に関する研修も取り入れた。
看護師卒後教育を5年とし、当院の目指す看護師像を掲げプログラムを見直し実施した。

■事業報告

- ① 働き続けられる環境づくり
→PNS継続 定着までに時間をかなり要する。現在の所は、仕掛けをすることでパートナーを意識するよう各部署が取り組んでいる。達成度 50%
- ② 患者の生活背景を考えた関わり方
→卒後教育に訪問看護を取り入れたが実践できなかった。各病棟で患者の生活背景を考えたカンファレンスの展開、訪問事業を行う看護師長からの講義など生活へ目を向ける取り組みを推進した。達成度 60%
- ③ スタッフ教育
→感染管理認定看護師資格取得
緩和ケア認定看護師資格取得のため研修へ
全日病学会 看護部から2第発表
卒後教育体系変更 達成度 80%
- ④ 院内の協力体制の構築
→看護部内での外来、病棟の連携を推進。処置の手伝いなど行っていたが、システムづくりが基盤になく持続しなかった。達成度 20%

田鶴浜診療所

■部門代表者

和田 汪

■2017年度のトピックス、実績

収支の安定に向けた取り組みとして、投薬のみ希望の患者に対し、診療を積極的に勧めてきた。

診療者数は、6,270名、前年比2.8%増。

■事業報告

① 鶴友苑と共同で地域へPRし受診や健康診断、予防接種を勧めてきた。

→ 外来新患者数 514名、前年比25%増。

② 併設施設とのコミュニケーション・情報交換に気を配り、地域の健康・安心に貢献できるよう不測の事態にも備えてきた。

クリニック

恵寿ローレルクリニック

■部門代表者

吉岡 哲也

■2017年度のトピックス、実績

患者数は9,483人で前年比95.8%となった。

訪問診療の件数は471件で、前年度の258件を大きく上回った。

■事業報告

妊婦健診や乳幼児健診、訪問診療など地域の幅広いニーズに対し、家庭医療という強みを活かしながら診療を行った。家庭医療専門医に2名が合格し、今後も地域に根差した医療を強化していく。

鳥屋診療所

■部門代表者

斎藤 靖人、中谷 茂和

■2017年度のトピックス、実績

患者数 内科：3,214名 小児科：4,317名

計：7,531名（前年 7,443名）

紹介 75名（恵寿総合病院 61名、その他 14名）

いきいき 総利用者数 3,498名

稼働率 75.9%（目標 75.0%）

■事業報告

中能登町で唯一の小児科として、順調に患者数が増えている。

いきいき：要介護認定者の通所リハ（午前・午後 3時間）

若手のPT・OTの勤務で、顧客満足度が上昇。

高齢者サロンで 2回（3回予定だったが雪のため 1回中止）

介護予防事業実施。

鳩ヶ丘クリニック

■部門代表者

宮本 正俊

■2017年度のトピックス、実績

年間患者数は 969 人であった。

（前年比 104.9%、45 人増加）

■事業報告

介護療養型老人保健施設 恵寿鳩ヶ丘の入所者の CT 撮影、胃ろう交換、外来の予防接種等を行った。

介護事業統括部

■部門代表者

吉田 茂和

■2017年度のトピックス、実績

入所・通所・訪問等、すべてを含む利用者の延べ人数は、205,639名で、前年の199,128名に比べ、約3.3%の増加がみられた。ただ、入所及び通所事業のみに着目すると平均稼働率は85.5%となり、一部の通所の苦戦が響き、前年度をわずか(0.1ポイント)ながら下回った。



介護事業統括部

■事業報告

① 施設利用者の満足度を上げる

→デイケア等を中心にQOL重視のプログラムを実施した

② とことんお世話をを行う

→サービスの導入から看取りに至るまで、「けいじゅ」が最後まで責任を持つという姿勢で取り組んだ

③ キャリア段位制度による実践的技術認定者を増やす

→アセッサー(評価者)育成の継続 7名増員
被評価者の認定に苦戦(レベル3の難易度高)

④ 特定行為認定者を増やす

→喀痰吸引研修受講者 32名
医療的処置(喀痰等)を必要とする利用者の受け入れ幅を広げた

⑤ キャリアアップ関係

→介護福祉士実務者研修受講者 10名
→ユマニチュード研修 延べ99名参加
→排泄研修 延べ37名参加

介護老人保健施設 和光苑

■所属医師

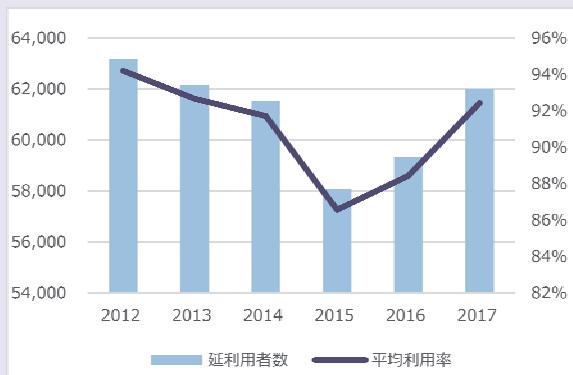
平井 洋

■2017年度のトピックス、実績

入所では在宅復帰よりも入所の稼働率アップ、通所も営業力による稼働率アップに努めた結果、利用者数は昨年度よりプラス4%を超えることが出来た。

延べ通所者数は前年比 453名増 (+4.6%)

延べ入所者数は前年比 2,366名増 (+4.8%)



■事業報告

目標と達成度

- ① 通所目標 達成率 101.7%
- ② 入所目標 達成率 101.0%
- ③ 在宅復帰強化と利用者満足の向上を図る
→ 在宅復帰支援加算は算定出来なかったが、7名の方が在宅復帰することが出来た。
- ④ 生活行為向上リハビリテーションの実施
→ 通所の利用者 7名が生活行為向上プログラムの実施にて、通所リハビリを卒業することが出来た。
- ⑤ 介護キャリアアップ段位制度のアセッサー増員及び認定特定行為従事者（喀痰吸引実施者）の増員
→ 新たにアセッサーを 3名誕生することが出来た。また、認定特定行為従事者も新たに 7名誕生させることが出来た。

介護老人保健施設 鶴友苑

■所属医師

和田 汪

■2017年度のトピックス、実績

老人保健施設本来の機能を発揮するために在宅復帰率向上に注力した。年間を通して50%を維持でき、強化型老健として継続できた。空床期間はショートステイでの稼働を強化したことで安定した稼働率につながった。

・在宅復帰率 64%（2017年度末現在）

・入所稼働率 平均 95.3%、前年比 0.8%増。



■事業報告

① 入所 目標稼働率 95%

→95.3% 入院や特養への急な退所時には、ショートステイで対応してきた。

② 通所 目標稼働率 89%

→83.2% 入院や施設入所者が多く、達成度としては93.5%。加算取得を意識し、生活行為向上リハビリテーションプログラムを3名実施できた。

③ 老健としての役割を果たす取り組みを強化する

→年間を通して延べ56名が在宅復帰し、在宅復帰率は50%以上を維持、強化型老健として継続できた。老健本来の機能の確保と顧客満足の両立に取り組んだ。

④ 個々にチャレンジ精神を持ち、様々な研修会参加、資格取得を目指す。

→介護キャリアアップ段位制度のアセッサーを2名増員。全国老人保健施設大会での事例発表に取り組んだ。

介護療養型老人保健施設 恵寿鳩ヶ丘

■所属医師

宮本 正俊

■2017年度のトピックス、実績

マンパワーの課題から、利用者延べ人数は、49,636名で前年51,885名に比べ、約4.2%減少したが、利用者満足度を上げる取組みとして、入所サービスを中心にボランティアの積極的活用、通所サービスを中心に各種文化活動の実施。吸痰等必要な医療ニーズへの対応として特定行為認定者の増加を図った。



■事業報告

①利用者の満足度を上げる

→行事委員会を中心に外出や毎月の誕生会等を企画、18組の地域ボランティアに積極的に協力いただき、多種多様な文化活動に触れていただくことができた。
→コミュニケーションノートの活用でご家族からは「普段の様子がわかる」退所時には「思い出になる」などの感謝の言葉をいただいた。
→通所サービスを中心に園芸、手芸、書道、囲碁などQOL重視のプログラムを行った。

②キャリア段位制度による実践的技術認定者を増やす

新たにアセッサー資格 2名取得

被評価者（レベル2-2）1名認定手続き中。

③特定行為認定者を増やす

喀痰吸引研修修了3名、実地研修5名修了。指導看護師2名増。他施設からの実地研修の受け入れ実施。

④地域へのアピール

介護医療院への転換準備。

恵寿居宅介護支援事業所「けいじゅ」

■部門代表者

諏訪 勝志

■2017年度のトピックス、実績

自立支援を考慮したケアプラン作成で、利用者が質の高い在宅生活を継続できるよう支援した。介護から支援への改善者15名、介護度改善者51名で全体の10.3%に改善がみられた。全日病学会で1演題発表。

■事業報告

今期目標は、請求件数500件/月であったが、請求件数は457.3件/月（91.3%）で目標を下回った。8月以降ケアマネ実人数0.4減だが、困難事例も含め積極的に新規依頼を受け入れ、利用者増に努めていく。

恵寿訪問リハビリテーション事業所「けいじゅ」

■部門代表者

諏訪 勝志

■2017年度のトピックス、実績

病院内リハビリスタッフに訪問リハの勉強会、紹介の働きかけを行い、病院退院時の紹介者増につなげた。社会参加支援加算取得により、質の高い訪問リハビリ提供をアピールし、ケアマネからの依頼も増えた。

■事業報告

今期目標は、利用者数400件/月であったが、利用者数377.7件/月（94.4%）で目標を下回った。退院後の集中的短期介入でスムーズな在宅復帰が促せるように病院スタッフに働きかけ、新規獲得を積極的に行っていく。

恵寿訪問看護事業所「けいじゅ」

■部門代表者

諭訪 勝志

■2017年度のトピックス、実績

5月より専任の訪問看護師が配属となり、頻回の訪問看護、より専門性を活かした訪問看護が提供できるようになり、病院内からの紹介が増加した。

■事業報告

今期目標は利用件数70件/月であったが、利用件数は73件/月（104.3%）と目標を達成した。病院から退院後で状態不安定な利用者もあり、家族・利用者の不安軽減のために土日などの緊急連絡時の対応が今後の課題。

在宅複合施設 ほのぼの

■部門代表者

石渡 利浩

■2017年度のトピックス、実績

施設内でのプロジェクトチーム活動に重点を置き（夢をかなえる、収支達成、学校とのコラボ、ユマニチュード）の施設内発表大会を実施し1年間の活動・今後の展望について発表し検証することができた。

■事業報告

今期目標の達成度：財務業務面は90%、顧客の視点は60%、仕事の進め方は90%、学習と成長は70%でした。今後の課題：BSCの考え方とのつり下級者に目標をカスクードし法人全体の目標を達成できるように方向付けをする。

恵寿福祉用具貸与事業所「けいじゅ」

■部門代表者

諭訪 勝志

■2017年度のトピックス、実績

福祉用具専門相談員資格を1名取得。担当者会議等に参加し、適切な福祉用具選択の助言を行っている。また、スマートな対応に心がけ、貸与品の搬入を希望日にはほぼ行えていた。

■事業報告

今期目標は、利用件数200件/月であったが、利用件数170.2件/月（85.1%）で目標を下回った。法人内ケアマネからの新規依頼は継続してあるが、利用者増のために法人外の居宅支援事業所へも営業活動を行っていく。

けいじゅ一本杉

■部門代表者

福久 典子

■2017年度のトピックス、実績

・7月まで登録者が伸びず低迷していたが、8月以降は25名～26名を維持することができている。
・困難な事例も七尾市・地域包括支援センター・地域の方とも連携し受け入れ、利用増に繋がった。

■事業報告

①目標登録人数 26名 平均 24.3名 達成率 93.4%
②目標稼働率 80% 平均 81.8%
③訪問体制加算は200件を大きく上回り、毎月取れている
課題としては訪問と通いのバランスをとり、業務の安定を図る

デイサービスセンター いこい・

■部門代表者

高松 由紀子

■2017年度のトピックス、実績

- ・地域交流会では、利用者家族を主に開催（17名参加）
いこいで活動内容を理解してもらい、満足度を高めることができた。
- ・ユマニチュード研修会に全員参加し、認知症利用者の対応について理解を深めることができた。

■事業報告

業務・財務の視点では、目標を大幅に下回り、達成することができなかった。利用者・家族の満足度を高め、PR活動を行い、顧客の拡大に努めていく。

医療福祉ショップ めぐみ・

■部門代表者

池岡 一彦

■2017年度のトピックス、実績

- 総売り上げ金額 : -96.8% (対昨年度)
総販売件数 : 102.2% (対昨年度)

■事業報告

- ① 総売り上げ金額 : -96.8% (対昨年度)
- ② 販売件数 平均 505 件/月 (昨年平均 496 件)
- ③ POP に英語表示を併記。外国人対応。

恵寿みおや・楽らく

■部門代表者

愛徳 亜矢

■2017年度のトピックス、実績

- 通い延人数 8,086 名 (昨年 7,188 名)
訪問延人数 8,866 名 (昨年 10,272 名)
泊まり延人数 516 名 (昨年 1,893 名)
前年比 -1%
6月にみらいカフェをオープン 3月に楽らくを廃止

■事業報告

稼働率目標 92%
⇒85.6% 達成率 93.0%

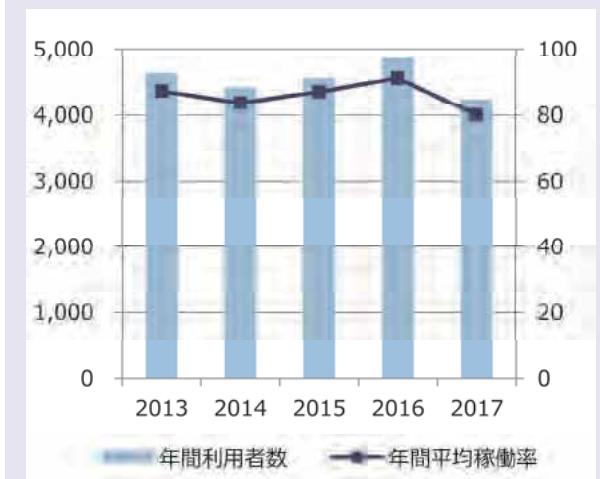
さいこうえんの障害者生活支援センター

■部門代表者

前田 晋

■2017年度のトピックス、実績

年間利用者数 4,249名、前年度比 12.6%減であった。
平均稼働率 80.1%、前年度比 12.3%減であった。



徳充会

■事業報告

地域活動支援センター課では、七尾市・中能登町からの委託を受け、障害者就業・生活支援センターⅠ型事業を実施している。地域にお住いの障がい者が日中通所され、さまざまな活動を実施している。生活支援員3名を配置し、主に生産活動（作業）や季節行事（花見会やクリスマス会など）調理プログラムやレクスポなど余暇活動も行った。今年度は地域の一員として事業所所在町内の美化活動（除草作業）にも取り組んだ。

相談支援事業（指定特定・指定一般・視程障害児）は、障がいのある人の様々な課題についての相談に応じ必要な情報提供、障害福祉サービス利用等の支援を行った（年間相談件数 3,217件：前年度比 16%増）。障害者就業・生活支援センター事業は、障がい者（または企業等）からの求職に係る相談・職場定着に係る相談、これらに伴う生活の相談を受け、その課題解決に向けて必要な情報提供、助言等の支援を実施した（年間相談件数 1,667件・就職件数 30件・職場実習件数 21件）。

バリアフリーホーム セエレーナ青山

■部門代表者

瀧野 利徳

■2017年度のトピックス、実績

青山彩光苑の敷地内に立地しており、障がいを抱えた方の住まいの場として機能し満床となる。

必要な方は、併設施設での食事サービスや入浴サービスを有料で受けることが可能である。



■事業報告

新規2名の入居があり、満床の状況が継続している。相談支援専門員や介護支援専門員との連携のもと、入居者全員が法人内の何らかのサービスを利用しておらず、住居の提供だけでなく活動と生活の両面を法人全体で支えている。
<法人内サービス利用の内訳> ※重複利用を含む
(障がい者活動系)

リハビリテーションセンター	10名
ワークセンター田鶴浜	11名
ライフサポートセンター	1名
障害者生活支援センター	1名

(高齢者活動系)

エレガンテなぎの浦	1名
ふれあいの里	1名

(生活支援系)

ローレルハイツ恵寿(ホームヘルプ)	6名
-------------------	----

青山彩光苑リハビリテーションセンター

■部門代表者

瀧野 利徳

■2017年度のトピックス、実績

2017年4月より、一般就労者の輩出を目的とした就労移行支援事業を開始した。実際には8名の利用があり、内1名が法人内事業所の支援員として就職するに至った。また、一般企業へ出向いての作業訓練(施設外就労)も行った。



■事業報告

目標と達成度

- ① 入所稼働率(短期入所含む)を90%以上とする。
→76.2%であったため、達成度としては84.7%
- ② 機能訓練稼働率を100%以上とする。
→101.8%であったため、達成度としては101.8%
- ③ 就労移行支援稼働率を80%以上とする。
→94.6%であったため、達成度としては118.3%
- ④ 新規事業
→就労移行支援事業(定員6名)
- ⑤ 総括
日中活動系において、機能訓練の延べ利用者数は減少したが、新たに就労移行支援事業を開始したことで、全体では前年度比106.9%の利用結果となった。地域において、就労移行支援の主対象となっている知的、精神、発達障害者の支援ニーズが高まっている。

青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

■部門代表者

池田 浩

■2017年度のトピックス、実績

利用実績は、稼働率目標 82%に対し、85%昨年対比 3.7%増、延べ利用者数は 8,531 名で昨年対比 96 名増となった。事業総売上高は、昨年対比 4.2%減となったが、行政からの委託作業も増え、安定収入増となった。



■事業報告

経営の安定化と常に成長を目指す

年間開所日数が昨年より 3 日間少なく、なつかつ年間を通じて 5 名の退所者に対し、4 名の新規利用者しか確保できなかつたが、健康管理・支援等の充実により、稼働率のアップ、延べ利用者数の増につながつた。登録者数は、1 減となり目標の 45 名には届かなかつた。利用者の高齢化の問題とともに、今後も利用者確保について継続課題として取り組む。授産事業においては、今年度より行政からの委託である家具等解体分別作業の業務を締結し、作業を開始した。必要経費が少なく安定収入となつてゐる。現行の自主生産事業における作業においては、予定通り遂行した。安定した収入を維持するために、新規の定番商品が不可欠であり、開発し続ける予定である。

青山彩光苑ライフサポートセンター

■部門代表者

今寺 忠造

■2017年度のトピックス、実績

新しい体験に取組む。知的に支援を必要とする利用者には、①のと鉄道乗車、②海水浴、③縁日（苑内）等を行つた。延べ 40 人参加。電車の揺れや海水に触れることで戻込みすることも見られたが、笑顔も多くみられた。ご家族にも写真や動画で様子をご覧いただき好評を得た。



■事業報告

テーマは「楽しみのある私らしい生活」。個人の生活に視点をあて、興味に寄り添つて支援。①図書館に出かける、②写真を撮り展示、③買い物に行く、④外食を楽しむ、⑤釣りに行くなど(延べ 323 人)。また、交流が好きな方を対象にカラオケ交流会も 2 回実施した。(延べ 83 人)。栄養面では、調理を通して、間食について学び、意識の変化が生まれた(24 回実施、延べ 116 人)。今後も個人の意向を支援に生かしていく。また、誕生日に背広やワンピース姿で写真撮影(24 人)を行い、新たな一面を記録に残し、ご家族にも好評をいただいた。

職員の資質向上として、各委員会主催の勉強会を開催。嚥下・口腔ケア（ソフト食を体験）、権利擁護委（不適切ケアとは）、移乗(リフター操作)、感染予防などを実施。勉強会参加職員は延べ 243 人。また、認定特定行為業務従事者は、介護職員の 38%となつた。

年間稼働率：生活介護事業 117.3% 施設入所支援事業 100.5% 短期入所事業 66.3%。

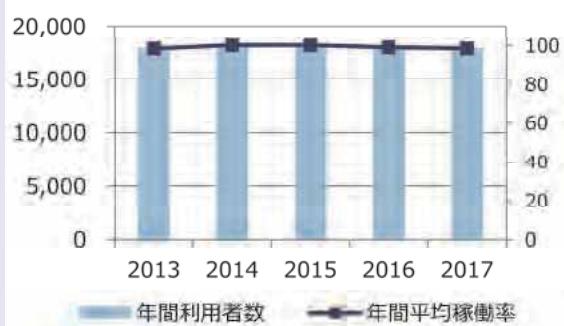
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター

■部門代表者

細木 俊逸

■2017年度のトピックス、実績

能登北部初の全室個室で、障がいのある方が利用する生活介護施設である。短期入所（ショートステイ）の受け入れでは、3障害（身体・知的・精神）を受け入れている。日中活動は、作業活動（箸袋、シューズキーパーなど）、スポーツ（ボッチャ：北陸大会出場、ゴロ卓球、風船バレー他）、余暇支援（園芸、調理、釣り、旅行）などを行っている。



■事業報告

作業活動では、延べ 236 名が参加し、外部での自主製品の販売を 9 回行った。地元の企業から仕事をもらい、年間工賃支給総額 203,081 円。慰労会を開催し 17 名参加。地元の中学校に出向き、ボッチャの交流、車椅子体験、目の不自由な方の擬似体験を行い、障がいへの理解を深めてもらうことができた。介助サービスを利用し、東京旅行を実施した。（利用者 6 名家族 1 名参加）ボッチャ交流会を企画運営し七尾・穴水の事業所から計 16 名の参加があり、ボッチャを通して交流を図ることができた。個別支援計画の作成に際して、利用者参加のサービス会議を計 16 回開催、本人の思いを計画に持ち込むことができた。

食事支援では、季節メニュー、特別メニューを計 36 回実施。経口維持、療養食の取り組みを他職種と連携して行う（経口維持 2 名、療養食 21 名）。

健康支援では、入所者 51 名が健康診断を受け、受診結果をご当事者、ご家族に伝え、助言・指導を行った。食事場面（窒息・心肺停止を想定）の訓練を介護職員延べ 17 名に実施。相談員・看護師が入所者の退院時カンファレンスに参加。（9 名）退院後の受け入れ態勢を取ることができた。

石川県精育園

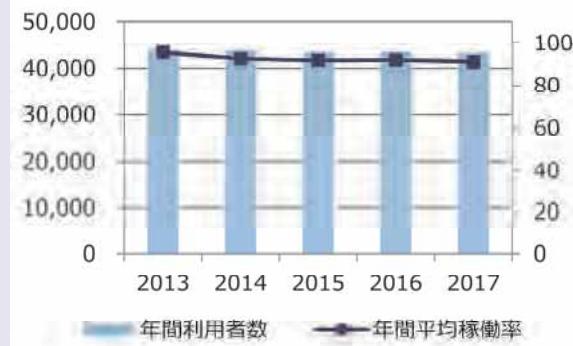
■部門代表者

今寺 忠造

■2017年度のトピックス、実績

平均障害支援区分 4.6、平均年齢 54 歳。生活介護稼働率 99.4%（前年 97.4%）施設入所支援稼働率 90.9%（前年 91.6%）施設入所の稼働率は前年比に比べて減となった。生活介護については、生活介護のみを利用する通所利用者が常時 7 名の他に、長期短期の利用となり微増。

グループホームけいじゅ（定員 20 名）を新設した。併設事業として、短期入所（定員 4 名）、相談支援キララ、ヘルパーステーション銀河（居宅支援）、地域交流スペース等など多機能型の事業を展開し、地域課題に対応できる体制を整備した。



■事業報告

60 歳以上が 36% を占め、高齢化と考えられる利用者の機能低下が顕在化し、機能の維持向上を図るための対策として作業療法士、管理栄養士、看護師、生活支援員のチームアプローチによる支援を強化し転倒予防・便秘対策・嚥下評価など事業所全体として健康支援に取り組んだ。また、感染症の予防についても職員一丸となって取り組んだ。

また、重度障害者加算対象者が利用者全体の 35% を占める中で、障害の重い方に対する支援力を高めるための研修、人材育成に取り組むとともに、利用者の余暇活動の充実に努め、QOL の向上として廊下の空調、ウォシュレットの整備等の改善を行った。一方で、家族、利用者に対する施設運営についての満足度調査では、居室の個室化など設備面の充実を希望する意見が多く寄せられた。

施設の防犯体制は、昨年度から、防犯カメラの設置や安全講習会実施するなど職員・利用者の意識向上に努めた。また、防災についても避難訓練の実施や救急救命の訓練などを継続的に取り組んでいる。

エレガンテなぎの浦・アンジェリイなぎの浦

■部門代表者

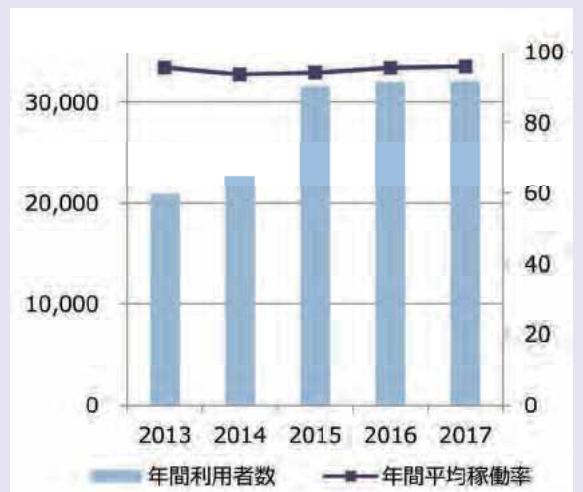
江沢 恵太

■2017年度のトピックス、実績

特養にて看取り介護を実施し、終末期における利用者様の選択肢拡大につながった。看取り介護の実績は4名であった。

口腔衛生管理、摂食・嚥下機能への支援を行い、機能維持・向上を図り、肺炎等による入院者の減少につながった。

介護キャリア段位制度を活用した人材育成を実施した。



■事業報告

目標と達成度

①目標稼働率は、特養 98%、ショートステイ 95%、ケアハウス 100%、デイサービス 85%。

→平均稼働率実績は、特養 95.7%、ショートステイ 95.5%、ケアハウス 95.8%、デイサービス 84.8%。

特養については、上半期の入院が平均 5.39 床であったが、看取り介護、口腔衛生、摂食嚥下への支援を強化し結果、平均 2.41 床に減少した。ケアハウスは、利用者の重度化により、入退居が頻繁であったため、目標には至っていないが、他の事業は、昨年の稼働を上回った。

②人材育成の一環で介護キャリア段位制度による段位認定を1名取得。

③エレガンテたつるはま（特養）との連携を目的に相談業務を中心に情報共有と業務の標準化を実施。業務改善や効率化につながった。

第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

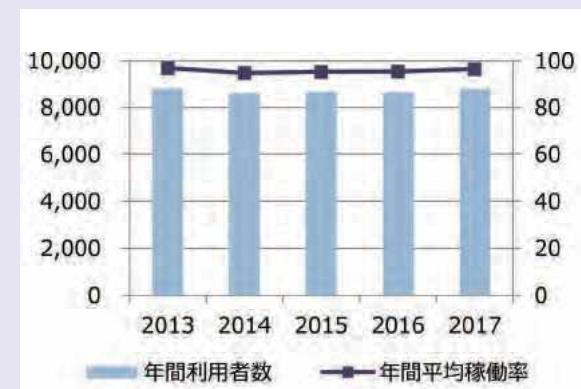
エレガンテたつるはま・もみの木苑

■部門代表者

江沢 恵太

■2017年度のトピックス、実績

エレガンテたつるはまでは、看取り介護を実施し、利用者様の終末期における選択肢拡大につながった。もみの木苑では、利用目的の大半を占める入浴に力を入れ、視覚、嗅覚でも楽しんでいただけるよう、変わり湯、壁画など銭湯の雰囲気を取り入れた環境整備を実施し、好評であった。



■事業報告

目標と達成度

①目標稼働率は、エレガンテたつるはま（特養）99%、デイサービスセンターもみの木苑 93%。

→平均稼働率実績は、エレガンテたつるはま 96.6%、入院による空床が、平均 0.7 床。もみの木苑は、81.6%であった。

看取り介護を実施し、これまで入院していた方が、施設内での生活を継続し、最期を迎えるようになつた。結果的に入院日数の減少にもつながつた。

②エレガンテたつるはま、もみの木苑では、地域密着型施設として、地域の介護支援センターに行事や支援のサポートをしていただき、地域交流が図られた。また、施設から地域へ出向いての支援も実施し、交流を図つた。

③エレガンテなぎの浦（特養）との連携を目的に相談業務を中心に情報共有と業務の標準化を実施。業務改善や効率化につながつた。

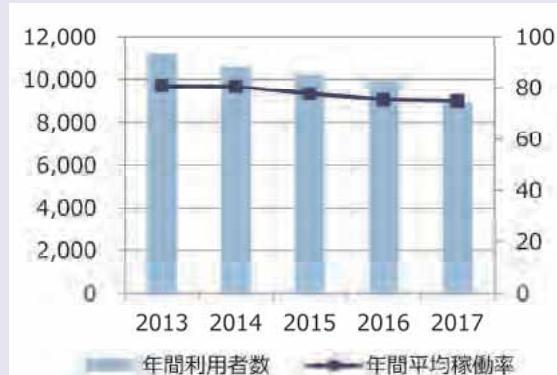
ふれあいの里

■部門代表者

芳原 哲弥

■2017年度のトピックス、実績

介護度別ケアの提供を図るべく、中重度・認知症・軽度、自立の3つのプロジェクトチームを立ち上げ、専門性を高めるための取組を実施した。2017年4月より基準緩和通所型サービス（交流型：定員10名）の提供を開始。延184名が利用された。



■事業報告

目標と達成度

① 通所介護の年間稼働率目標は90%

→達成度は74.8%

死亡や入所、長期ショートステイ利用などによる利用の休止や中止が多く稼働率は伸び悩む結果となった。新規事業である基準緩和通所型サービスは7名の利用者が毎週月曜日に利用している。

② 訪問入浴は90件/月以上の提供

→達成度は77.9件/月

職員の離職等により、営業日を縮小せざるを得ない状況が続いた。新規はターミナルケア対象者のみとし、2017年度は4名に留まった。

③ 配食サービスの目標配達件数2,200件/月

→達成度は2,036件/月

サービス利用の受付基準の厳格化により七尾市からの委託件数が年々減少している。

ローレルハイツ恵寿

■部門代表者

内田 かおり

■2017年度のトピックス、実績

オープンして2年目。ケアハウスは満室状態を毎月維持した。サ高住は2年目8カ月の12月に満室とした。その後も入居希望の方の問い合わせは続いている。



■事業報告

目標と達成度

① 全体入居率 95%

・ケアハウス 目標稼働率 100%

⇒結果：99.7%（入退去をスピーディーに行う事を意識した結果100%に近い数字であった。）

・サ高住 目標入居率 94%

⇒結果：12月より入居率100%。49人/49人 VIP501号室契約有。

②『医』『食』『住』安心のメディカルホーム作り

・『医』医療連携加算は全員から取得した。

医療連携を通して、情報を共有し安心して過ごせる環境づくりを整えた。

・『食』健康管理を行う。

医療と連携し、治療食からの健康維持を整える環境づくりを整えた。

・『住』家族会の開催・勉強会を行う

家族会は委員会を行ったが、開催までには至らなかった。勉強会は、感染、食中毒を入居者対象に行った。

参加率は82%。関心を高めた。

③ 安定した収支の維持

ケアハウスは1年間毎月1日には満床とした。

サ高住は12月より満室とした。ヘルパーは職員減を調整し、1人あたりの現場時間を増やした。

④ 職員の質の向上

接遇を日頃から意識させ、苦情はなし。

毎日の朝礼に、フィロソフィを取り入れ、職員周知に努めた。

健康増進センターアスロン

■部門代表者

一谷 真澄

■2017年度のトピックス、実績

会員利用料金の改定・新料金への取組みによる利用収入増への取組み。

増加率 個人正会員 36%増

平日会員 39%増

土日会員 45%増

小人会員 60%増

年会費から月会費（口座引落）への変更

上記の取り組みにより、前年度と比較すると、利用料収入が約57%増となった。



■事業報告

① 施設営業時間の改定。（1時間増への取組み）

10:00～20:00→10:00～21:00

② 介護事業【基準緩和通所型サービス（運動型）事業】

開始。2017年4月6日～開始。

対象者：

要支援者及び基本チェックリストによる事業対象者

内容：

運動プログラムを活用した機能訓練・レクリエーション等

定員：10名

③ 中能登町との連携

対象者：65～85歳未満の高齢者

運動機能向上プログラム3ヶ月（2クール）

④ 七尾市との連携

対象者：65歳の方

七尾市無料クーポン券配布事業の受け入れ

徳充会 総務部

■部門代表者

山下 賢、畠中 浩樹

■2017年度のトピックス、実績

①確定拠出年金制度の導入

②無期転換職員の就業規則制定

③石川県高等学校教育研究会福祉部会との人材確保に向けた意見交換会

④「いしかわ魅力ある福祉職場」認定制度への申請

■事業報告

①確定拠出年金制度の導入、無期転換職員の就業規則制定。→福利厚生制度の充実と職員の働き方の選択肢を広げることができた。

②人材確保にむけた取組。→石川県より「いしかわ魅力ある福祉職場」として認定を受ける。(2018年4月10日)

徳充会 経営企画部

■部門代表者

松下 清寛

■2017年度のトピックス、実績

①2017年度より会計監査人を設置。それにより会計監査の受入れ体制の整備を行った。（事前調査への対応、専門知識のスキルアップ）

②情報公開の強化が行われ、「財務諸表等電子開示システム」への対応やHPへの公開対応を行う。

③社会福祉法人制度改革に伴う新しい役員構成と会議の運営対応。

■事業報告

①会計業務

②社会福祉法人制度改革への対応

③理事会・評議員会開催（6月、9月、3月）

④法人登記手続き（資産総額変更、理事長登記）

⑤指導監査の対応

実地監査8施設、書面監査3施設

⑥請求業務（就労移行事業開始、補助金等）

アドボカシー室

■部門代表者

池田 真理子

■2017年度のトピックス、実績

今年度も昨年同様「あいさつに一声添えて安心感」を標語に掲げ、利用者・家族等の意見等を吸い上げる心構えを周知した。

■事業報告

アドボカシー室には20件の意見が寄せられ部長会議において報告をした。

職員の話を聴く姿勢についての指摘、また職員間の相談に関わり、事業所に引き継ぎ対応して頂いたケースがあり解決に至った。現場での受け止める姿勢・環境が整っていることにより即対応、即実践ができている。

徳充会 教育研修委員会

■委員会代表者

芳原 哲弥

■2017年度のトピックス、実績

2017年度 委員会回数 5回

① 介護福祉士受験対策講座

・国家試験対策模擬試験（4回）17名受験

・フォローUP勉強会（6回）

・国家試験結果6名合格

② ノーリフト推進のための視察研修（金津サンホーム）

③ キャリア段位制度の普及（3名受講）

■委員会検討内容

第1回 2017年7月12日（水）

年間事業計画の検討・決定

4つの事業を実施することを決議する

第2回 2017年8月24日（木）

国家試験対策講座の概要の確認

キャリア段位制度の受講者数の確認

生涯学習単位の活用方法の確認

第3回 2017年10月19日（木）

第1回模擬試験結果の確認

フォローUP勉強会の確認

ノーリフトの推進にむけた視察研修の検討

生涯学習単位の活用方法の確認

第4回 2017年12月4日（木）

ノーリフト視察研修の報告

第2回模擬試験の結果報告

フォローUP勉強会の開催日程の確認

キャリア段位制度受講終了報告（3名）

第5回 2018年3月22日（木）

介護福祉士国家試験自己採点報告

次年度の取組についての意見交換

徳充会 福利厚生委員会

■委員会代表者

田口 茂美

■2017年度のトピックス、実績

2017年度 委員会回数 6回

① 2017年7月8日（土）

レク企画ソフトバーボール大会&BBQ（参加者56名）

② 2017年9月30日（土）～10月1日（日）

旅行企画 有馬温泉・神戸大阪散策（参加者38名）

③ 2017年10月21日（土）～10月22日（日）

旅行企画 東京フリータイムorTDR（参加者家族含21名）

④ 2018年2月24日（土）

レク企画 ボウリング大会（参加者55名）

事例研究大会

■委員会代表者

順毛 沙弥香

■2017年度のトピックス、実績

事例研究大会 2018年2月24日（土）

会場…青山彩光苑

多目的ホール、談話室、会議室、研修室

大会テーマ

「質の向上を目指して～利用者・職員の笑顔のために～」

提出事例数 事例(36当日発表、234紙面発表)

参加人数 180名、前年比6.25%減

部門(障害者・高齢者)ごとに最優秀賞、優秀賞、

苑長賞を設け、職員会議で表彰を行う。

■委員会検討内容

第1回 2017年5月10日（水）

- ・各事業所への行事助成金の取り扱いについて
- ・昨年度の活動報告及び今年度の事業予定について

第2回 2017年6月12日（月）

- ・ソフトバーボール大会&BBQ企画について
- ・旅行企画について

第3回 2017年7月24日（月）

- ・ソフトバーボール大会&BBQ企画報告及び反省
- ・旅行企画参加状況報告

第4回 2017年11月20日（月）

- ・旅行企画実施報告
- ・ボウリング大会企画について

第5回 2018年1月15日（月）

- ・ボウリング大会企画参加状況報告
- ・ボウリング大会景品等準備について

第6回 2018年3月12日（月）

- ・ボウリング大会企画報告・及び反省
- ・今年度の反省・まとめ

■委員会検討内容

第1回…開催日、大会テーマ、事例選出など基本要綱に関する事項について検討する。(2017.7.25)

第2回…座長、評価表、アンケート内容見直しについて検討する。(2017.10.12)

第3回…大会当日の対応、事例収集方法の確認を行う。(2017.12.14)

第4回…当日役割分担、冊子印刷方法、必要物品の確認を行う。(2018.2.13)

第5回…事例研究大会の振り返り、次年度委員会に向けて意見交換会を実施する。(2018.3.15)

①今年度新規取り組み内容

- ・座長への事例評価表の基準の作成
- ・事例作成の為要綱の規格サイズに設定したサンプルを作成
- ・苑長賞2事例ずつの選出、表彰

②課題

- ・発表環境整備のさらなる推進（大きい会場での実施の検討）
- ・より充実した大会を目指すための事例数や大会の取り組み方の検討